

特別支援学校

道 徳

ガイドブック



金城晶也「笑うといいよ」

沖縄県立鏡が丘特別支援学校

この資料は、令和3年度沖縄県教育委員会指定グループ研究
「特別支援学校における道徳の指導と評価の一体化—明確化・標準化・共有化の視点に基づいた
道徳の教育実践の改善に—」の成果資料を再編成したものです。

目次

1. 特別支援学校 道徳のQ&A	1
(1) 道徳って何？	2
(2) 特別支援学校の道徳科と年間指導計画の立て方について	3
(3) 道徳科の授業のポイント・進め方	8
2. 道徳の目標設定と評価	11
(1) 道徳科と道徳教育	11
(2) 道徳科評価の基本的な考え方	14
(3) 道徳科の授業のねらいと評価	15
(4) 指導要録での評価	22
(5) 個別の指導計画・通知表における目標設定と評価	23
◆ 道徳の各発達段階における発達特性と中心的目標	33
3. ゆっくり学ぶ子の道徳のステップ（障害の重い子の道徳指導ガイド）	35
Ⅰ 段階—愛着・信頼関係による道徳性の土台期—	35
Ⅱ 段階—自我の芽生えと道徳性への気付き期—	38
Ⅲ 段階—道徳性の芽生え期—	42
4. 道徳教材として活用できる絵本リスト	47
5. 道徳と関連する各教科等の内容例	52
6. 道徳の内容項目と自立活動の学習内容との関連性（例）	56
7. 道徳科振り返りワークシート	60
8. 道徳科学びの記録（準ずる教育課程の児童生徒、軽度知的障害のある児童生徒用）	61
9. 道徳科学びの記録（障害の重い児童生徒用）	62
10. 年間指導計画記入例（知的障害のある児童生徒）	63
11. 年間指導計画記入例（重度・重複障害のある児童生徒）	64
12. 個別の指導計画記入例（軽度知的障害の児童生徒/中度知的障害の児童生徒）	65
13. 参考文献	68
14. 研究同人	69

1. 特別支援学校 道徳のQ&A

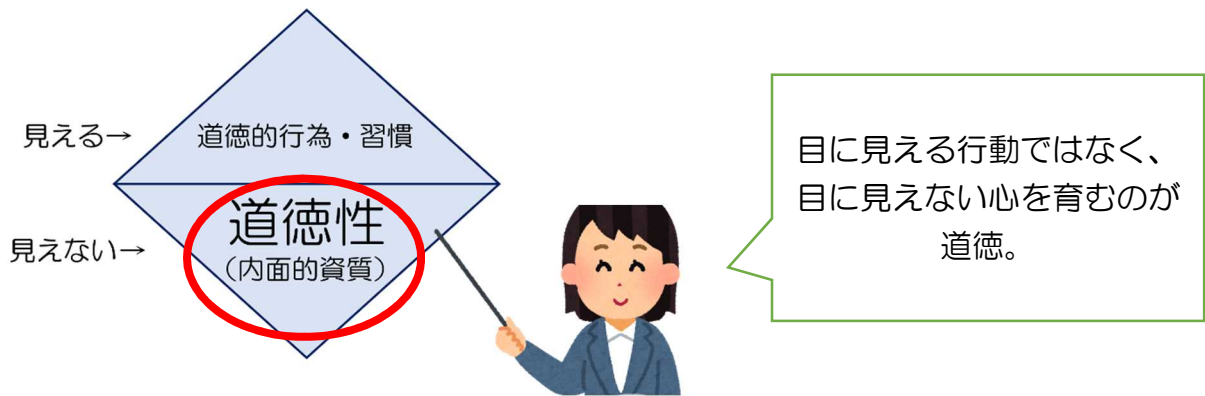
(1) 道徳って何？

Q 道徳ってそもそも何を教えるの？

A 道徳性を養うことが道徳の目標です。

道徳性とは、次のように定義されます。「意欲・態度」は、道徳的行動そのものと誤解されやすいですが、道徳的行動を主体的に選択・実践するための内面的資質を意味しています。

道徳的判断力	<u>それぞれの場面において善悪を判断する能力のこと。</u> (人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。)
道徳的心情	<u>道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと。</u> (人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情)
道徳的実践 意欲と態度	<u>道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性。</u> (道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働きそれらに裏付けられた具体的な道徳的行動への身構え)



よくある誤解	
目標	手だて
①お礼が言えるようになる。 ②人との適切な距離感がわかり、のぞましい距離で接することができる。	具体的な場面を設定し、反復して練習する。 「腕の長さ」など、適切な距離感を視覚化・具体化して捉えやすくする。

この指導内容自体は大切な指導ですが、道徳の目標とはいえません。
反復練習で機械的にお礼が言えるようになっても道徳性は育まれません。道徳的行動・習慣を自ら実践しようとする内面的資質を育てるのが道徳の目標になります。

Q 道徳教育と道徳科・・・違うもの？同じもの？

A 道徳教育と道徳科を混同しないよう注意が必要です。

道徳科の授業は設ける必要があります。


○道徳教育

教育活動全体を通して行う道徳指導のこと
道徳教育の目標 教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の（人間としての）生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

○道徳科（特別の教科 道徳）

道徳科の授業のこと
道徳科の目標 道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 (小学校学習指導要領 特別の教科道徳編) ※ () は中学校学習指導要領 特別の教科道徳編

道徳教育は学校の教育活動全体を通して行う道徳指導のことであり、各教科、特別活動、自立活動、総合的な学習の時間（高等部は総合的な探究の時間）で指導します。一方、道徳科は授業としての道徳科のことです。道徳は学校の教育活動全体を通して行うので道徳の授業は設ける必要がないと誤解される場合がありますが、道徳科は教科ですので、小中学部には設ける必要があります。（高等部も知的障害者を教育する特別支援学校の場合は設ける必要があります）。

こんな誤解に注意	
 <p>道徳科って、学校教育活動全体を通して指導するんでしょ？</p>	道徳科の評価 登校時に自分から進んで挨拶ができました。 給食では給食当番を「自分の役割だから」と、責任感をもって取り組んでいました。
道徳科は、時数を設けて指導する必要があります。	道徳科の評価（所見）は、道徳科の授業の評価（所見）になります。教育活動全体を通じた道徳指導の評価ではありません。

Q 道徳は教科になって何が変わったの？

A 検定教科書を使用すること、評価をきちんと行うこと。

まず教科なので中心的な教材として検定教科書を使用します。今までも副読本がありましたが、今回の教科化によって教科書を用いることになった点が大きな変化です。

もう一つの変化は、評価です。教科である以上きちんと評価を行うことが求められます。

ただし、他の教科とは異なる点もあります。それは道徳科の免許は設定しないこと、数値的な評価は行わないことなどです。これが教科であっても「特別な教科」とされる理由です。

(2) 特別支援学校の道徳科と年間指導計画の立て方について

Q 特別支援学校小中学部の道徳科は、小中学校と違いがあるの？

A 小中学校と原則同一です。

特別支援学校小中学部の道徳科の目標・内容・指導計画の作成・内容の取扱いは、小中学校に準ずることになっています。準ずるとは原則として同一という意味です。したがって、小中学部の道徳科の年間指導計画作成や内容の取扱い等においては、小中学校道徳科の学習指導要領を参照しましょう。

ただし、特別支援学校学習指導要領には、特別支援学校独自に3点が定められていますので、これを考慮して計画を立て指導しましょう。

第3章 特別の教科 道徳

小学部又は中学部の道徳科の目標、内容及び指導計画の作成と内容の取扱いについては、それぞれ小学校学習指導要領第3章又は中学校学習指導要領第3章に示すものに準ずるほか、次に示すところによるものとする。

- 1 児童又は生徒の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服して、強く生きようとする意欲を高め、明るい生活態度を養うとともに、健全な人生観の育成を図る必要があること。
- 2 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動及び自立活動との関連を密にしながら、経験の拡充を図り、豊かな道徳的心情を育て、広い視野に立って道徳的判断や行動ができるように指導する必要があること。
- 3 知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校において、内容の指導に当たっては、個々の児童生徒又は生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じて、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化し、体験的な活動を取り入れるなどの工夫を行うこと。

Q 高等部では道德教育を行わないの？道德の授業は行うの？

A 学校の教育活動全体を通じて指導します。

知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校では特別の教科道德の授業があります。

高等部では準ずる教育課程の場合、特別の教科道德は設けられていませんが、公民科の「公共」及び「倫理」並びに特別活動が、人間としての在り方生き方に関する中核的な指導の場となります。また学校の教育活動全体を通じて道德を指導します。

知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校においては、特別の教科道德の授業が設けられています。視覚障害者・聴覚障害者・肢体不自由者又は病弱者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の場合、知的障害を併せ有する生徒で、生徒の障害の状態により特に必要がある場合には、「知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校における各教科等の履修等によることができること」が定められており、この規定を適用する場合は、道德科の履修が必要とされます。

(特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部) 第1章第2節第8款の3の(2))

Q 教科書はどのように用いたらよいのでしょうか？

A 基本的に検定教科書を用います。

効果が期待できる場合、教材を開発することも必要です。

道德科の授業は、学習指導要領に基づいて行われるものであることから、授業で活用する教材は、教育基本法や学校教育法その他の法令はもとより、学習指導要領に準拠したものが求められます。

(小学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編。中学校学習指導要領にも同様の記載あり)。そのため、基本的に検定教科書を用いる必要があります。

ただし、特別支援学校の場合、児童生徒の実態が多様であることから、一人一人の実態に応じて教材を開発する必要がある場合がほとんどです。その場合は次の点に留意して教材を開発しましょう。道德科は特定の価値観を押しつける指導は厳禁ですから、3については特に気をつけましょう。

1. 児童生徒の発達に即し、ねらいを達成するのにふさわしいものであること
2. 人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤の心の揺れ、人間関係の理解等の課題を含め、児童が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるものであること
3. 多様な見方や考え方のできる事例を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること。

(小学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編。中学校学習指導要領にも同様の趣旨の記載)

Q道徳科の授業では、道徳の内容項目をすべて指導するの？

A全て指導します。

特別支援学校小学部・中学部の道徳科の目標・内容はそれぞれ小学校・中学校学習指導要領に準ずることになっています。

指導要領では、「当該学年段階の全ての内容項目について、適切に指導しなければならない」、「特に必要な場合は、他の学年段階の内容項目を加えることはできるが、当該学年段階の内容項目の指導を全体にわたって十分行う必要がある」とあります。つまり年間 35 時間道徳科の授業がある場合、その中で全ての内容項目を指導できるよう年間指導計画を立てる必要があります。

さらに、特別支援学校小中学部に設けられる道徳科では、これに加えて「障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服して、強く生きようとする意欲を高め、明るい生活態度を養うとともに、健全な人生観の育成を図る」指導を行う必要があります。

(小学校学習指導要領特別の教科道徳編解説第3章第1節1(2)および(3)*中学校学習指導要領解説にも同様の記述)(特別支援学校学習指導要領第3章)

Q当該学年のねらいや内容では難しいと感じる場合は？

A 道徳科も下学年の内容に替えることが可能ですが・・・。

小学部の場合、道徳科の内容を当該学年より前の学年の内容の一部又は全部によって、替えることができることになっています。また中学部の場合、小学部(小学校)道徳科の目標・内容の一部又は全部によって、替えることができます。

ただし、児童生徒の生活年齢を踏まえ、当該学年の目標・内容を指導することが大前提です。安易な代替は行わないようにすることが肝要です。教えることが難しいから下学部・下学年に替えるという考え方は間違いです。児童生徒が現在までに達成している目標と次に達成を目指す目標を見極める視点を持ちましょう。過去の個別の指導計画や指導要録等から、対象となる児童生徒に何をどこまで指導したのか確認し、個別の指導計画を立てたうえで、年間で取り扱う内容を計画しましょう。下学年の内容を指導する場合、その教材として下学年の教科書等を有効に活用しましょう。

道徳科の各学年の内容の一部又は全部を、当該各学年より前の学年の内容の一部又は全部によって、替えることができること。(特別支援学校教育要領・学習指導要領第1章第8節の1の(2))

中学部の各教科及び道徳科の目標及び内容に関する事項の一部又は全部を、当該各教科に相当する小学部の各教科及び道徳科の目標及び内容に関する事項の一部又は全部によって、替えることができること。(特別支援学校教育要領・学習指導要領第1章第8節の1の(4))

Q 知的障害のある児童生徒のねらいや内容はどうする？

A 小中学校と原則同一です。

小中学校の道徳科の学習指導要領を参照しましょう。

知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校小・中学部における道徳科の目標・内容・指導計画の作成・内容の取扱いは、小学校・中学校学習指導要領に準ずるとともに、先述した特別支援学校独自の事項を考慮して指導します。また、障害の状態によって、特に必要がある場合は、前学年（下学年）や下学部の目標・内容に替えて指導することができます。したがって、知的障害の児童生徒に対する道徳科の年間指導計画の作成においては、児童生徒の過去の個別の指導計画や指導要録等での学びの履歴を確認した後、発達の段階や経験等を考慮して、小学校・中学校学習指導要領に示された道徳の内容項目について、指導すべき学年の内容を選定する必要があります。

ただし、その場合でも、その目標については生活年齢を考慮し、その学部に該当する学校（小学部＝小学校、中学部＝中学校）の目標を設定するのが望ましいでしょう。

指導は生活に結び付いたものに具体化し、体験的な活動を取り入れるなど工夫しましょう。

Q 高等部の知的障害のある生徒に対する道徳科は？

A 小中学部の目標・内容を基盤に、青年期の特性を考慮して、健全な

社会生活を営む上に必要な道徳性の向上に努めます。

基本的に小中学校の学習指導要領を参考にその目標・内容を踏まえて指導します。その際、様々な人々との関係を適切に形成できるようにすることや、生活年齢や青年期の心理的発達の状態などを考慮しつつ、小中学部における指導との一貫性を図ることが大切です。

道徳科の目標及び内容については、小学部及び中学部における目標及び内容を基盤とし、さらに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めることに務めるものとする。（特別支援学校高等部学習指導要領 第3章第1款）

また、小中学部の場合、障害の状態により特に必要がある場合には、前学年（下学年）や下学部（中学部の場合）の目標・内容の一部又は全部に置き換えて指導することができますが、高等部の場合はこの規定がないため、置き換えるのではなく、あくまでも小中学部の目標・内容を踏まえて指導することになります。

さらに、小中学部のように、幼稚部教育要領のねらいや内容の一部を取り入れることを可能とする規定も、高等部にはないことに留意する必要があります。

Q障害の重い児童生徒のねらいや内容はどうしたらいい？

A 幼稚部教育要領・幼稚園教育要領等を参考にしましょう。

障害の重度重複化によって、「小学校学習指導要領特別の教科道徳」に示された内容項目について、小学校1・2学年の目標・内容を指導することが難しい児童生徒も増えています。その場合は、幼稚部教育要領の領域のねらいと内容の一部を取り入れることができます。

(高等部にはこの規定がないことに留意する)。ただし、その場合でも児童生徒の生活年齢を踏まえて、当該学部・当該学年の内容の指導を前提にし、必要がある場合にのみ一部取り入れるようにしましょう。

幼稚部教育要領に示す各領域のねらい及び内容の一部を取り入れることができること。

(特別支援学校学習指導要領 第1章第8節の1の(6))

幼稚部教育要領では、「健康、人間関係、環境、言葉及び表現」が示されていますが、このねらい・内容・内容の取扱いは、幼稚園教育要領に準ずることとなっているため、実際には、幼稚園教育要領を参照することになります。参考までに、人との関わりに関する領域「人間関係」のねらいと内容を示します。

なお、ほかの領域においても道徳と関連の深いねらいや内容を含んでいる部分がありますので、道徳と関連性が高いのは「人間関係」の領域に限ったことではないことに留意してください。

人との関わりに関する領域「人間関係」

1 ねらい

- (1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
- (2) 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。
- (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

内容

- (1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。
- (2) 自分で考え、自分で行動する。
- (3) 自分でできることは自分でする。
- (4) いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
- (5) 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- (6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- (7) 友達によさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
- (8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。
- (9) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。
- (10) 友達との関わりを深め、思いやりをもつ。
- (11) 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。
- (12) 共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う。
- (13) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

(幼稚園教育要領解説第2章第2節2)

幼稚園教育要領では幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として、「道徳性・規範意識の芽生え」を示しています。障害の状態が重度になるほど、実生活の中でより具体的な指導が効果的になりますが、その際に参考にするとよいでしょう。

道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(幼稚園教育要領解説第1章第2節)

幼稚園就園の発達年齢に達していない児童生徒に関しては、保育所保育指針が参考になります。特別支援学校学習指導要領において、取り入れることができるのは幼稚園教育要領までですが、保育所保育指針は幼稚園教育要領と整合性が図られながら規定されており、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として、「道徳性・規範意識の芽生え」を共有するなど共通性と系統性があります。発達年齢が幼稚園就園年齢未満の児童生徒も多い特別支援学校において、保育所保育指針に示されたねらいや内容は、この発達段階にある児童生徒の道徳性の発達の方向を押さえ、その成長を見取る上でのヒントを提供してくれます。

重複障害者のうち、障害の状態により特に必要がある場合は、道徳科の目標及び内容に関する事項の一部に替えて、自立活動を主として指導を行うことができます。ただし、目標及び内容の全てを自立活動に替えて指導することはできないことに留意する必要があります。つまり障害の状態が重度であっても、道徳科の指導を行わないことはできません。道徳科を合わせた指導において指導する場合でも、その単元の中に道徳科の目標と内容を時数との関係において明確に位置付けて指導する必要があります。

重複障害者のうち、障害の状態により特に必要がある場合には、各教科、道徳科、外国語活動若しくは特別活動の目標及び内容に関する事項の一部又は各教科、外国語活動若しくは総合的な学習の時間（高等部は総合的な探究の時間）に替えて、自立活動を主として指導を行うことができるものとする。

(特別支援学校学習指導要領第1章第8節の4) 高等部にも同旨の規定あり。

(3) 道徳科の授業のポイント・進め方

Q 道徳科の授業のポイントは？

A 考え、議論する授業を行うことです。価値観の押しつけはNG

そもそも道徳の教科化の目的は、道徳の授業改善にありました。どのような授業を行ったらいいのか、そのポイントを明らかにする前に、今までの道徳授業で陥りがちだったNG授業がどのようなものか確認します。

NG な道徳科の授業例

■単なる知的理解に終始した授業

例)「障害者差別はいけません。障害を理由とする不当な差別は障害者差別解消法で禁じています。」
「誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会を実現する必要があります。」

*具体的な事例をもとに、いろいろな感じ方、立場の違いを取り上げ、自分の経験や感じ方と照らし合わせながら考えられるような授業にしましょう。そのことで、自分の生き方を考えるような授業を目指しましょう。

■行為の仕方そのものを指導する授業、行為ができるようになることを目的にした授業

例)「廊下ですれ違ったら挨拶をしよう」→できることを目的とした生活科の内容になっている。

*挨拶をされた時の嬉しい気持ち、挨拶する時の照れくささ、したくてもできなかったことなど自分を振り返り、自分の経験や感じ方、葛藤と照らし合わせて考える授業にしましょう。

■特定の考え方や価値観に無批判に従わせるような授業

例)「新しい空港建設は自然破壊になるので中止すべきである」

「登場人物の通り、嘘をついたら絶対いけないよ」

*答えは一つではなく正解は存在しない。多面的・多角的に考察し、児童生徒が自分との関わりで考えられるような授業にしましょう。

■登場人物の心情理解に偏った授業

*教材をもとに、自分を見つめ、多様な感じ方・考え方の存在に触れることで、自分の生き方について考えを深められるような授業にしましょう。

次に、どのような授業が望ましいか、学習指導要領をもとに示します。道徳科の目標に「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して」とあることから、道徳科の授業では、①道徳的諸価値についての理解、②自己を見つめる、③多面的・多角的に考える、④自己の生き方について考えを深める、の4点を具備する必要があります。

- 1 道徳的諸価値についての理解を促す
 <道徳的諸価値についての理解とは>
 ①道徳の内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること
 ②道徳的価値は大切であってもなかなか実現できない人間の弱さを理解すること
 ③道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではないことを理解すること
- 2 自己を見つめられるようにする
 道徳的価値について自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせて考えたり、理解しようとしたりできるようにしましょう
- 3 (広い視野から) 多面的・多角的に考えることができるようにする
 対話したり協働したりしながら、多様な感じ方や考え方に接するようにしましょう
 発達段階に応じて、2つの概念や矛盾・対立している教材を扱うようにしましょう
- 4 自己の(人間としての)生き方についての考えを深めることができるようにする
 (小学校学習指導要領特別の教科道徳編) * () は中学校学習指導要領特別の教科道徳編

Q 授業は、どのように進める？

A 導入→展開→終末という展開が基本です。

授業の進め方として一般的なものは、導入→展開→終末という3分割による展開です。

	役割	ポイント
導入	主題に対する児童生徒の興味関心を高め、自己を見つめる動機付けを図る段階	本時の主題に関わる問題意識をもたせたり、興味関心をもたせたりするように工夫しましょう。
展開	中心的な教材によって、児童生徒一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめる段階	発問を中心に進めていきます。 児童生徒一人一人の感じ方や考え方を生かしつつ、物事を多面的・多角的に考えたり、自分との関わりで理解したり、自己を見つめたりできるように留意しましょう。
終末	ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめ、道徳的価値を実現することのよさや難しさを確認する段階	学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、これからへの思いや課題について考えたりする学習活動を行いましょう。

(小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編)

2. 道徳の目標設定と評価

(1) 道徳科と道徳教育

① 授業としての道徳科の目標を立て評価を行う

道徳には授業として行う特別の教科道徳（以下道徳科）と、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育とがあります。両者を混同しないように注意しましょう。個別の指導計画・通知表（ここでは良い子のあゆみも通知表として一括りにして扱う）・指導要録において評価を行うのは授業としての道徳科の方になります。個別の指導計画における目標（通知表に転載される目標）も、授業としての道徳科に限った目標を立てます。

教育活動全体を通じて行う道徳指導
<p>道徳教育の目標</p> <p>教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の（人間としての）生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。</p>

特別の教科道徳（道徳科） ※道徳の授業のこと
<p>道徳科の目標</p> <p>道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</p>

（小学校学習指導要領 特別の教科道徳編）※（ ）は中学校学習指導要領 特別の教科道徳編

	個別の指導計画	通知表	指導要録
特別の教科道徳（道徳科）	目標・内容・手だて 評価を記述	「特別の教科道徳」欄に 記述式で評価 又は個別の指導計画の 目標・評価を転載	「特別の教科道徳」欄に 記述式で評価
教育活動全体を通じた道徳教育	なし	通信欄に記述	行動の記録 総合所見に記述

指導要録における行動の記録は、道徳教育と密接に関係しているものの道徳教育そのものの評価ではない点に注意する。

混同に
注意！

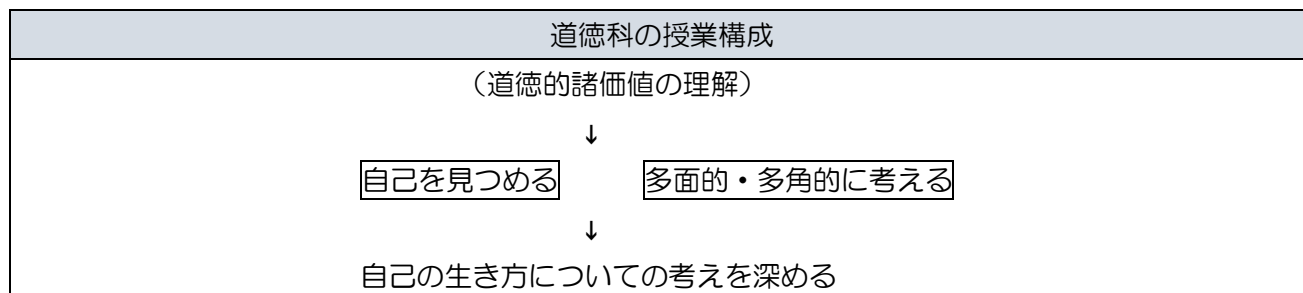
教育活動全体を通じた
道徳教育

特別の教科道徳
（道徳科）

② 道徳科の学びとは？ 道徳科と道徳教育の違い

学校の教育活動全体を通じた道徳教育も授業としての道徳科も、その目標は道徳性の育成という点で同じです。しかし、道徳科は「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習」とあるように、道徳的諸価値について考えを深める学習です。

具体的な学びの構成（学びのプロセスともいえる）は次のようになります。



文部科学省「小学校学習指導要領 解説 特別の教科道徳編」をもとに作成

↓	道徳的価値の理解とは	<ul style="list-style-type: none"> ①内容項目を人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること ②道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さも理解すること ③道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であることを理解すること
	自己を見つめるとは	児童生徒一人一人が自分の経験やそのときの感じ方・考え方と照らし合わせながら考えること
	多面的・多角的に考えるとは	そのよさや意義、困難さ、多様さなどを様々な視点から捉えること

これらの学習を通して自己の生き方（在り方）についての考えを深める



道徳的な活動をしている授業であっても、これらの学びが含まれていない授業は道徳科とはいえません。

「気持ちのよい挨拶を心掛けて明るく接すること」を取り上げた道徳科の授業構成

(道徳的諸価値の理解)

- ①挨拶はよりよく生きる上で大切「気持ちのよい挨拶は自分も相手も気持ちよくなるよね」
- ②大切だけどできないのも人間の弱さ「自分から挨拶するのは気恥ずかしい時もあるよね」
- ③感じ方・考え方は一つではない「挨拶しないこと気にしていなかったけど、他の子は気にしていた」

自分は照れくさくてできないことあったなあ
でも挨拶されたらうれし
いな

自己を見つめる

多面的・多角的に考える

自己の生き方についての考えを深める

A君は、普段声は出さ
ないけど、気持ちの良
い笑顔で挨拶している
なあ

普段あまり意識していなかったけど、挨拶を交わすと嬉しい気持ちになるから、やっぱり挨拶は大切なんだなあ。自分はいつも照れて小さい声になってしまうなあ。Bさんは小さい声でも心をこめた挨拶が大切じゃないかって言っていたなあ。これからは気持ちをこめて挨拶してみよう。

道徳性

道徳的
判断力

気持ちのよい挨拶は自分も相手も
よい気持ちになるから、挨拶した
方がいいな

自分から挨拶したり、挨拶されたりすると清々しい気持ちになるな。相手と気持ちが通じた感じがし

道徳的
心情

実践意欲・
態度

これからはもっと心をこめて
挨拶してみよう

ポイント

単に「気持ちのよい挨拶ができるようになる」ことを
目標にしているわけではない点に注意です。

(2) 道徳科評価の基本的な考え方

学習指導要領において、道徳科の評価は次の点を基本とすることが示されています。

【道徳科の評価の基本的態度】

- ① 子供がいかにか成長したかを積極的に認め、励ます個人内評価で記述式とすること
- ② 教師と子供の人格的な触れ合いによる共感的な理解に基づく評価とすること
- ③ 努力を認めたり、励ましたりすることで、子供が自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなる評価とすること
- ④ 学習活動における子供の具体的な取組状況を、一定のまとまり（期間）の中で見取ること
- ⑤ 大きくくりなまとまり（学期、1年等の期間）を踏まえて評価すること

文部科学省「小学校学習指導要領 解説 特別の教科道徳編」 中学校のものにも同様の趣旨の記載あり
また、道徳科の評価として望ましくない評価として、次の点が示されています。

【望ましくない道徳科の評価】

- ① 道徳性そのものを評価すること
 - ▶ 道徳性が養われたか否かは、容易に判断できない
- ② 数値などによる評価
 - ▶ 道徳性は子供の人格全体に関わるものであり、数値等で不用意に評価してはいけない
- ③ どれだけ道徳的価値を理解したかなどの基準を設定すること
 - ▶ いかによく生きるか等の道徳性は個人の問題に関するもの
- ④ 観点別評価を通じて分析的に評価すること
 - ▶ 道徳科の評価として妥当ではない
- ⑤ 個々の内容項目ごとに評価すること
- ⑥ 他の子供と比較して評価すること
 - ▶ いかにか成長したかを積極的に受け止め励ます個人内評価にする
- ⑦ 道徳科の評価を調査書に記載したり、入学者選抜の可否に活用したりすること

文部科学省「小学校学習指導要領 解説 特別の教科道徳編」 中学校のものにも同様の趣旨の記載あり

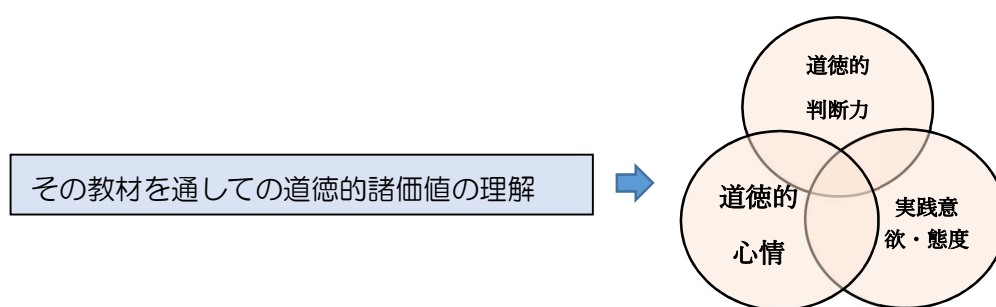
道徳科の評価の特質を他の教科のそれと比較すると次のようになります。

	他の教科等	道徳科
観点別評価	○	×
到達度の評価	○	×
評価の種類	絶対評価	個人内評価・記述式
評価の方法	目標に準拠してその達成度を評価する	授業での具体的な取組状況（学習の様子）を記述する

(3) 道徳科の授業のねらいと評価

① 授業のねらいの立て方

道徳科の授業のねらいは、次のような構成にするとよいでしょう。



「気持ちのよい挨拶は、お互いをよい気持ちにさせることに気付き、
気持ちのよい挨拶をしようとする意欲をもつ/気持ちをもつ」

道徳科の評価においては、道徳性そのものを評価することはできませんが、授業そのものは道徳性を養うことをねらいにします。まず、その教材を通して理解する道徳的諸価値について書き、その後目指すべき道徳的判断力、道徳的心情、実践意欲・態度を書きます。道徳的判断力、道徳的心情、実践意欲・態度は表裏一体の関係にあることから、分節して目標にすることは難しいという面があります。そこで、「(よりよく生きようとする/行動しようとする) 心情を育てる」「(よりよく生きようとする/行動しようとする) 態度を養う」等と書くのが一例です。このような書き方をすることで、そのねらいの中に道徳的判断力、道徳的心情、実践意欲・態度を含むことができます。

道徳科のねらいの語尾例（教師主語で記述する場合）

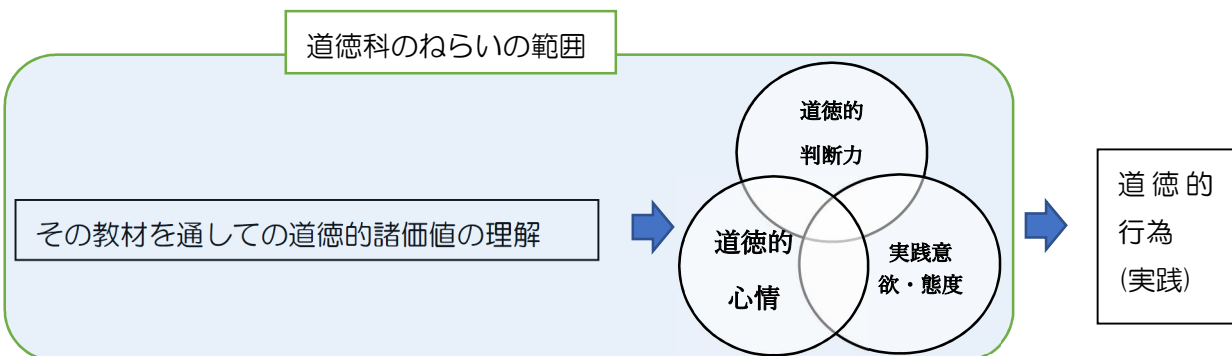
<p>【道徳的諸価値の理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（道徳的諸価値）の理解を促し、・・・ ・（ 〃 ）が分かるようにし、・・・ ・（ 〃 ）を知り、・・・ ・（ 〃 ）に気付くよう促し、・・・ ・（ 〃 ）に親しめるようにし、・・・ ・（ 〃 ）を感じられるようにし、・・・ <p style="text-align: right;">など</p>	<p>【道徳的判断力、道徳的心情、実践意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～しようとする気持ちを ・～しようとする心情を ・～する態度を ・～する意欲を <p style="text-align: center;">（気持ちを）持てるようにする</p> <p style="text-align: center;">育む 育てる 養う 培う</p> <p style="text-align: right;">など</p>
---	--

道徳科のねらいの語尾例（児童生徒主語で記述する場合）

<p>【道徳的諸価値の理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（道徳的諸価値）を理解し、・・・ ・（ 〃 ）～が分かり、・・・ ・（ 〃 ）～を知り、・・・ ・（ 〃 ）～に気付き、・・・ ・（ 〃 ）～に親しみ、・・・ ・（ 〃 ）～感じ（感じ取り）、・・・ <p style="text-align: right;">など</p>	<p>【道徳的判断力、道徳的心情、実践意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～しようとする気持ちをもつ ・～する意欲をもつ <p style="text-align: right;">など</p>
---	--



道徳科のねらいには道徳的行為が含まれません。
道徳科がねらいとする道徳性は目に見えない内面的資質です。



実践意欲とは・・・道徳的価値を実現しようとする意志の働き
道徳的態度とは・・・道徳的行為への身構え

こんな道徳科のねらいを立ててしまっていないませんか？

よくある道徳科のねらい	問題点
自ら進んで挨拶できるようになる	挨拶という行為の意義に気付き、挨拶しようという気持ちを育てることが大切
勤労感謝のプレゼントを渡すことができる	勤労や感謝という道徳的価値を理解することや、その気持ちを育てることが大切
みんなと楽しく過ごすことができる	その時、子どもはどんな価値に気付き、どんなことを考えているのでしょうか？
意欲をもって主体的に取り組む	他の教科の目標にもなりうること。 道徳科としての学びは？

② 授業の評価

児童生徒の道徳性そのものを評価することはできません。したがって、他の教科のように授業のねらいをそのまま評価規準に転じることができません。その代わりに、学習の取組状況（授業の様子）を、**学びを見取る視点**に即して評価します。

	授業の目標	授業の評価規準
他の教科 (中学部社会の例)	人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解する。	人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。 (知識・技能)
道徳科	気持ちのよい挨拶を心がけて明るく接することが自分と相手との人間関係をよりよいものにすることに気付き、気持ちのよい挨拶を心がける態度を養う。	気持ちのよい挨拶を心がけて明るく接することが自分と相手との人間関係をよりよいものにすることに気付いている。 気持ちのよい挨拶を心がけている。

道徳の学びを見取る視点の例

道徳の学びを見取る視点の例①
視点① 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか
視点② 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

※学習指導要領に示された一般的な見取る視点です。

道徳の学びを見取る視点の例②（鏡が丘特別支援学校）
視点①道徳的諸価値について理解しているか
視点②自分を見つめているか
視点③いろいろな考え方や感じ方に触れて、考えているか
視点④自分がどうすべきか/どうしたいか考えているか

※鏡が丘特別支援学校の見取る視点です。多様な障害のある子どもの学びを見取るため複数の視点に分けています。

道徳の学びを見取る視点の例③（鏡が丘特別支援学校 障害の重い子の場合）

道徳的価値に関して（今までや普段と違い/いつもよりも）

気付いている様子があるか/感じ取っている様子があるか

葛藤している様子があるか

※表情・発声・仕草などから情動の表出を見取る

※鏡が丘特別支援学校の見取る視点です。書字や発言等による表現が難しい子の表情や仕草などから学びを見取るための視点になっています。


道徳の学びを見取る視点②（鏡が丘特別支援学校の視点）による授業の見取り例

道徳的諸価値について理解しているかな？

自分を見つめて考えているかな？

他の児童生徒のいろいろな考え方や感じ方に触れて、考えているかな？

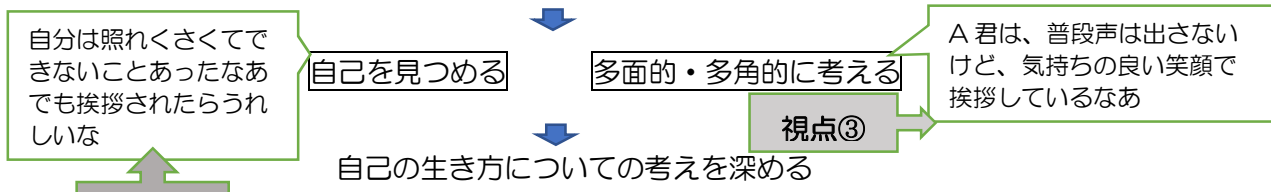
自分がどうすべきか
どうしたいか考えているかな？



「気持ちのよい挨拶を心掛けて明るく接すること」を取り上げた道徳科の授業の評価

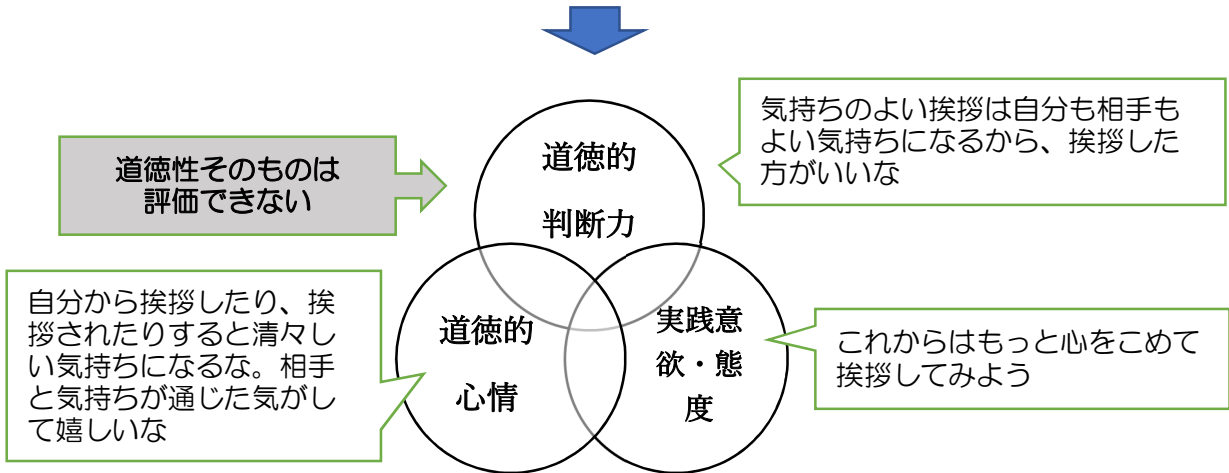
（道徳的諸価値の理解）

- ①挨拶はよりよく生きる上で大切「気持ちのよい挨拶は自分も相手も気持ちよくなるよね」 ← **視点①**
- ②大切だけどできないのも人間の弱さ「自分から挨拶するのは気恥ずかしい時もあるよね」
- ③感じ方・考え方は一つではない「挨拶しないこと気にしていなかったけど、他の子は気にしていた」



普段あまり意識していなかったけど、挨拶を交わすと嬉しい気持ちになるから、やっぱり挨拶は大切なんだなあ。自分はいつも照れて小さい声になってしまうなあ。Bさんは小さい声でも心をこめた挨拶が大切じゃないかって言っていたなあ。これからは気持ちをこめて挨拶してみよう。

視点④



道徳科授業の評価例

- 「気持ちのよい挨拶を心がけて明るく接すること」の授業では、
- 授業のワークシートに「気持ちのよい挨拶をすると自分も相手も気持ちよくなる」と書いていた。（視点①）
 - 自分は照れくさくて挨拶できないことがあったことを振り返る発言をしていた。（視点②）
 - ほかの児童生徒がいつも気持ちのよい笑顔で挨拶している様子を思い出していた（視点③）
 - 授業のワークシートに、「自分はいつも照れて小さい声になってしまうが、友達には小さい声でも心をこめた挨拶が大切じゃないかって言っていた。これからは気持ちをこめて挨拶してみよう」と書いていた。（視点④）

道徳科授業の望ましくない評価例

- 気持ちのよい挨拶を心がけようとする意欲が高まった
…道徳性そのものを評価してしまっている。教師の主観が入っていて客観性がない
- 気持ちのよい挨拶ができた/できるようになった
…道徳科は行動ができるようになることを目指しているわけではない

③ 障害の重い子の目標設定と評価

小中学部の場合、道徳科はどんなに障害が重い児童生徒でも履修することになっています。（一部を自立活動に置き替えることができますが、全部を置き替えることはできません）障害の重い小中学部の児童生徒の場合でも、当該学部の目標・当該学年の内容を踏まえることが大前提です。まず小学校・中学校学習指導要領道徳編に示された目標・内容項目を確認しましょう。その上で、障害の状態により特に必要がある場合は幼稚部教育要領に示す各領域のねらい及び内容の一部を取り入れることができます。安易に取り入れることは慎む必要がありますが、必要に応じて幼稚部教育要領の内容を参照することで、授業のイメージが付きやすくなる場合があります。「道徳のステップ」を参考に授業のねらいを設定しましょう。

実際の授業の例

対象：S スケール 24～36 の児童達

内容項目【規則の尊重】

教科書を活用することが難しい実態の児童であるため、独自の教材を用いました。

絵本、ペープサート、ビデオ、劇など、具体的な教材や活動方法が考えられます。授業で扱う内容項目【規則の尊重】の道徳的価値について学習指導要領の解説を開き理解します。



「道徳のステップ」で【規則の尊重】に関連する内容を調べてみます。すると、「道徳のステップ」におけるⅡ段階—自我の芽生えと道徳性の気付き期（発達年齢1歳～3歳）に示された、内容項目【規則の尊重】自分と他者の気持ちの違いに気付き、人と過ごすために約束やきまりがあることや、

その大切さに気付くこと」が、児童の実態や発達段階にちょうどよい学習の切り口であることが推測されました。そこで次のような授業のねらいを立てました。

C 主として集団や社会との関わりに関すること	
規則の尊重	自分と他者の気持ちの違いに気付き、人と過ごすために約束やきまりがあることや、その大切さに気付くこと



設定した授業のねらい（例）
順番を決めて交代しながら好きな活動をすることで、お互いに嫌な気持ちをせずに活動できることに気付き、順番を守ろうという気持ちをもつ。

大好きな音楽を聴きたくて iPad を独占してしまいがちな A 児に対し、自分も好きな動画が見たい B 児が交代するよう求め、2 人は iPad をめぐってよくトラブルになります。そこで、このような題材を選び授業にしました。教師が交代で iPad を使うように注意したり、一方的にルールを決めて従わせたりすることは簡単ですが、道徳科ではその意味を考えさせることを重視しています。教師は、実生活でトラブルになりがちなテーマを取り上げることにしました。

ねらいは、先に上げた構成を当てはめて立てます。

「順番を決めて交代しながら好きな活動をすることで、お互いに嫌な気持ちをせずに活動できることに気付き、順番を守ろうという気持ちをもつ」

「順番を決めて交代しながら好きな活動に取り組むこと」を取り上げた授業のやりとり
<p>CT 「今日は iPad で好きな動画を見ます。でも iPad は 1 台しかありません。」</p> <p>A 児 「見たい」</p> <p>B 児 （動画を見たように、指を差す）</p> <p>CT 「1 台しかないので、順番を決めて交代で見るというルールにしましょう。」 A 児も B 児も賛成した。順番は A 児→B 児→ST である。</p> <p>ST 「先生も見たい！」突然 ST が iPad を独占して動画を見始める。</p> <p>A 児 「ええーっ！」</p> <p>B 児 （ルール違反の ST に向かって、何度も指を差す）</p> <p>ST 「だって、先生も見たいんだから。みんなはがまんしてね。」</p> <p>A 児 「ええーっ！見たい！」</p> <p>CT 「〇〇先生（ST）は、どうしても動画を見たいんだね。でも、〇〇先生が一番最後というルールだよ。A 君も B 君も納得できないよね。困ったね。」 A 児と B 児の気持ちを代弁する。</p> <p>A 児 B 児 ルールを守らず動画を独占する ST に困惑し憤る 2 人。</p> <p>CT 「ルールを守ろうね」CT は ST から iPad を取り戻し A 君に渡す。</p> <p>A 児 「やった！」</p> <p>嬉しそうに動画を見る A 児の側で、B 児はうらやましそうにその様子を見つめている。</p>

CT 「A君楽しそうだね。B君も早く見たいね。でも我慢して待っているね。」
 やがてB君の番になる。しかし、A君はなかなかiPadを手放せない。
 ついにB君が泣き出してしまった。

CT 「次はB君の番だよ。A君、B君泣き出してしまったよ。
 見たくてずっと我慢していたみたいだよ。」B君の心境を代弁する。

A君 「・・・」。B君の様子をチラチラ見ながらバツが悪そうに、ついに交代した。

CT 「B君とってもうれしそうだよ。A君が代わってくれたからだね。A君ももっと見たかったよね。でもちゃんとルールを守れたんだね。」

A君 「うん」少し照れくさそうに喜ぶ。

ST 「やっぱり先生が！」突然STが、B君のiPadを横取りしようとする。

A君 「あーっ！ダメ」A君は、自分が横取りされるわけではないが、STの行動がよくない行動だと判断して止めようとした。

対象となる児童は、発達段階でいえば自我の芽生えと道徳性の気付き期に相当します。自分がやりたいという自我と、ルールなどを守ってほめられたいという自我が葛藤する発達段階であると考えられます。交代しなくてはならないというルールは理解しているものの、いざ交代の場面に直面すると、交代したくないという気持ちが出てしまいなかなか行動できませんでした。それでも教師の促しに応じたのは、B君が泣いたことや、ルールは守らないといけないというもう一つの自我があったからかもしれません。こういったことは、集団生活の中でのいざこざを通して学ぶものですが、児童生徒の人数が少ない特別支援学校ではそのような機会も限られます。そこでSTがいざこざの代役を演じました。この段階の児童生徒の道徳科指導に当たっては、「道徳のステップ」に、その支援や指導のポイントを掲載しているので参考にしてください。

授業での様子を記録し、評価を行います。ここではA君について評価してみます。道徳の学びを見取る視点の例③（鏡が丘特別支援学校 障害の重い子の場合）に即し、A君の様子を見取ると、次のように評価できます。

道徳的価値に関して（今までや普段と違い/いつもよりも）
 気付いている様子があるか/感じ取っている様子があるか
 葛藤している様子があるか
 ※表情・発声・仕草などから情動の表出を見取る

我慢してB君に交代したことや、それによってB君が嬉しそうにしていたことを教師に伝えられ、嬉しそうな表情をした。

交代をする時に、まだ続けたそうな様子が見られたが、順番を守ることを優先して我慢した
 B君が泣く様子を見て、順番を守りB君に譲った。また順番を守らない素振（演技）を見せたSTを制止しようとした。

児童生徒の実態によっては、実生活に即したテーマを題材にすることが効果的だと考えられます。児童生徒同士のトラブルは学校生活のあらゆる場面で発生します。教師が仲介に入り、順番を守ることや仲良く遊ぶことを指導することは、学校の教育活動全体を通じた道徳教育として、必要な状況において適切に行われる必要があります。しかしながら、そうだとすると、順番を守る大切さや意

義について改めて考えたり、自分を振り返ったりする時間があるわけではありません。このように即興的な教育活動全体を通じた道徳指導の穴を埋めるのが道徳科の授業ともいえます。

(4) 指導要録での評価

道徳科の指導要録での評価は、Ⅱで示した事柄に注意しながら記述式で行います。指導要録の場合も、道徳性そのものを評価してはならず、授業の取組状況について記述します。それもどれか1つの授業の様子を取り上げるのではなく、大きくくりなまとまり(1年間というスパン)での顕著に見られた取組状況の様子や児童生徒の成長を記述することになっています。また、特定の内容項目について学んだことを評価しないことや、主題名や扱った教材を書かないことにも留意する必要があります。

指導要録「特別の教科 道徳」欄 記述のポイント
<ul style="list-style-type: none">• 学びを見取る4つの視点のいずれかの視点で見取った授業の取組状況について、一年間を通して顕著にみられた様子を記述する。• 授業の取組状況の中でみられた子供の成長を記述する。• 一つの授業や一つの主題を取り上げて、その授業だけでの取組状況を記述しない。• 内容項目ごとに評価しない。• 主題名や内容項目、授業で取り上げた教材名を明記しない。

指導要録の記述例

ア：一年間を通じた子供の取組状況について顕著だった様子を書く
一つの授業でのエピソードではなく、年間を通して見られた傾向性を記す

指導要録「特別の教科 道徳」欄 記入例
さまざまな道徳的価値について、自分の体験を振り返りながら考えることができた。ア 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて、具体的に理解しようとしている。イ

イ：その中でも成長が見られた点を書く

指導要録は記述スペースが限られるため、端的に記述することが求められます。一年間を通じた子供の取組状況について顕著だった様子や成長した様子を書くためには、毎回の授業の評価が記録としてストックされている必要があります。特に道徳科はテストを課す教科ではありませんので、他の教科以上に授業の記録が重要になります。

学校の教育活動全体を通じた道徳教育の評価に関しては、指導要録における、「行動の記録」欄が最も関連が深いといえます。行動の記録は、項目ごとに絶対評価でなされることになっています。知的障害・知的代替の教育課程の児童生徒達の場合、記述式で書くことになっていますが、その場合でも項目ごとに見取って記述する必要があると考えます。

(5) 個別の指導計画・通知表における目標設定と評価

① 基本的な考え方

通知表における道徳科の評価は、指導要録と同じように一定の期間を通しての学習の取組状況（授業の様子）と、道徳性に係る成長の様子を記述式で書くこととなります。しかしながら、児童生徒と保護者に学習の様子やその成果をわかりやすく伝えるという役割がある通知表の場合、ある授業での特徴的なエピソードも加えて記述することが効果的だと考えます。ただし、その場合でも教師の主観的判断を避け、学びを見取る視点によって見取った姿をありのままに記述することが求められます。また、道徳の内容項目を個別に評価することも、児童生徒の道徳性そのものを評価している誤解を与える恐れがあることから避ける必要があると考えます。

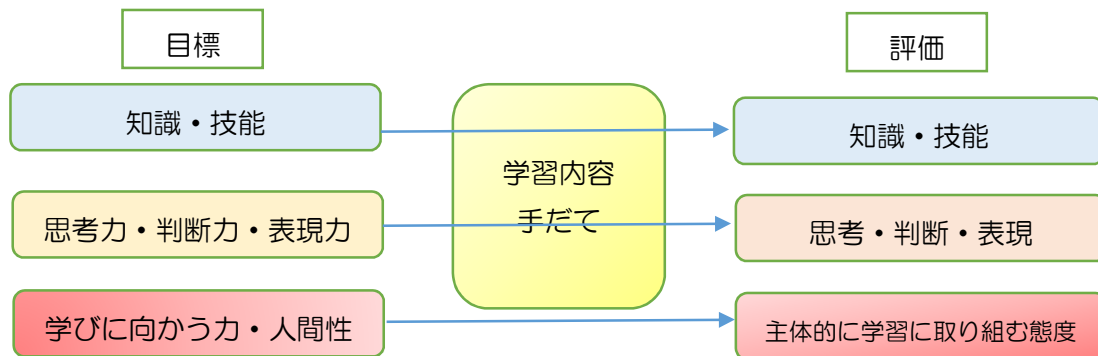
評価（所見）の記述内容

指導要録	通知表
<ul style="list-style-type: none">年間を通しての学習の取組状況年間を通しての道徳性に係る成長の様子	<ul style="list-style-type: none">学期を通しての学習の取組状況学期を通しての道徳性に係る成長の様子ある授業での特徴的なエピソード

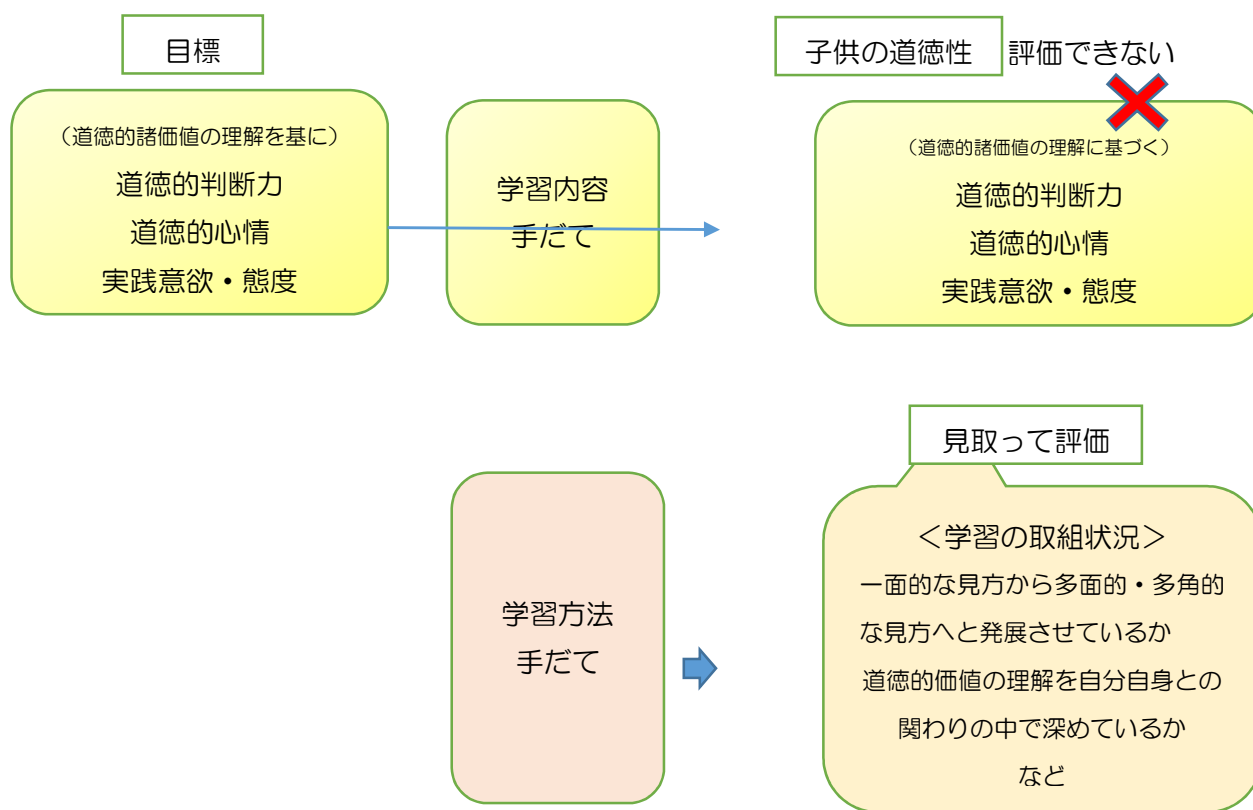
本県の場合、通知表は個別の指導計画とリンクしており、準ずる教育課程以外の児童生徒の場合、個別の指導計画における目標と学習内容がそのまま通知表に反映される様式となっています。そのため、個別の指導計画における目標は、その教科等の授業で教師が行う個別の配慮や指導の目標ではなく、あくまでも児童生徒がその学期に取り組む学習の目標となっています。道徳科の場合も個別の指導計画における目標は、教科としての道徳科の目標を踏まえた目標を記述することになります。

他の教科と道徳科が異なる点は、目標と評価の関係性に違いがあるという点にあります。この点を次の図で整理します。他の教科の場合、目標は3つの資質・能力に即して立てられます。評価もこの目標に対応して3つの観点によって評価します。しかし、道徳科の場合、3つの資質・能力に即して目標設定は行わず、3つの観点で評価することも行いません。そして最も大きな違いは、目標の到達状況の評価するのではなく、学習の取組状況の評価するという間接的な評価になるという点です。目標とする道徳性は内面的資質であるため、直接評価することができないだけでなく、評価しようとする児童生徒の人間性そのものを評価してしまう恐れがあることから、このような形で評価することになっています。このため、道徳科で実際に評価する対象は学習の取組状況であり、それは学びを見取る視点に即して見取ることになります。

他の教科の一般的な目標と評価の関係性



道徳科の目標と評価の関係性



目標に即して道徳性そのものを評価するのではなく、
学習の取組状況を見取る



学びを見取るためには、その学びが発生する状況やしかけを授業
の中で作ったり、教材や発問、ワークシート等を工夫したりする必
要があります。

② 目標設定の方法

ア、年間目標の設定

個別の指導計画において目標を立て、手だてを考えるためには児童生徒の実態把握が必要になります。過去の個別の指導計画等から既習内容を確認し、生活年齢、障害特性や発達段階、経験、社会性、進路を踏まえて総合的に実態を把握します。

年間の目標は、当該学部の道徳科の目標になります。児童生徒の実態によっては、当該学部の道徳科の目標に即してより具体的に設定したり、重点的に指導したいことを強調したりして設定することも考えられます。

年間の目標は、一つの内容項目等を取り出してそのまま目標に据えることは適当ではありません。それぞれの内容項目は、道徳の指導に当たって取り扱うべき内容であって、それ自体が目標とする子供の姿ではないためです。道徳科の目標は内容項目の学びを通じた道徳性の育成であることを踏まえる必要があります。そこで、年間の目標の立案にあたっては、次のような構成で目標を立てるのがよいと考えます。

道徳科の目標（中学校の場合）
道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、 <u>道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、<u>道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。</u></u>

目標は、学び方と道徳科で育むべき道徳性の構成で示されています。これを個別の指導計画の目標と手立ての関係に置き換えると次のようになります。

学び方	道徳科で育むべき道徳性
<u>道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習</u>	<u>道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度</u>

個別の指導計画の年間目標	個別の指導計画の手立て
その年度で育む <u>道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度</u>	<u>道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を実現するための手立て</u>



道徳科の個別の指導計画における目標【基本形】例
道徳的な価値について理解し、よりよく生きるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。

構成は毎回の授業の目標の立て方と同じように、前半に道徳的な価値についての理解を、後半に目指す道徳的判断力、道徳的心情、実践意欲・態度を書くことよいでしょう。

この基本形をもとに、児童生徒の既習内容、生活年齢、障害特性や発達段階、経験、社会性、進路等を踏まえて個別に年間の目標を設定していくのがよいと考えます。

「道徳の各発達段階における発達特性と中心的目標」を参考にしてください。中心的目標のうち◎は、年間の目標に据えるためのもので、その段階の内容項目を全て網羅したものになっています。

道徳科の個別の指導計画における目標【基本形】例	
道徳的な価値について理解し、よりよく生きるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。	
小学部 2 年生の事例（知的障害）	道徳科の個別の指導計画における目標例
→	身の回りの生活や人との関わりにおける <u>道徳的な価値について理解し、自分の生活や周りの人とよりよく関わり生活するための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。</u>
小学部 5 年生の事例（準ずる）	道徳科の個別の指導計画における目標例
→	<u>道徳的諸価値についての理解を深め、自己の生き方を考えながら、他者とともによりよく生きるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。</u>
中学部 3 年生の事例（準ずる）	道徳科の個別の指導計画における目標例
→	<u>道徳的諸価値について理解を深め、人間としてのよりよい生き方について考えながら、他者とともによりよく生きるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。</u>
中学部 2 年生の事例（重度重複障害）	道徳科の個別の指導計画における目標例
→	身の回りの人との関わりの中で、 <u>道徳的な価値に気付いたり、感じたりして、よりよく人と関わるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。</u>
高等部 3 年生の事例（準ずる）	道徳科の個別の指導計画における目標例
→	卒業後の社会生活と関連付けて <u>道徳的諸価値について理解を深め、人間としての在り方生き方について考え、主体的に判断し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。</u>
高等部 3 年生の事例（軽度知的障害）	道徳科の個別の指導計画における目標例
→	卒業後の職業生活と関連付けて <u>道徳的諸価値について理解を深め、人間としての在り方生き方について考え、主体的に判断し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。</u>



当該学部の目標を基本形に、その年齢での発達特性や生徒の既習内容、実態等を踏まえて目標を立てる。
基本形に即した書き方をすることで、引継ぎ資料として既習内容を把握しやすくするという面もある

イ、学期目標の設定

個別の指導計画では各学期の目標を設定します。道徳科の授業が年間 35 時間設定しているとすると、およそ1時間に1つの内容項目を指導することになります。ひとつの学期の授業が 10 時間～15 時間程度あると想定すると、ひとつの学期に 10 個以上の内容項目を扱う計算になります。したがって、学期目標は、年間の目標を見据えながらその学期で扱う複数の内容項目を網羅した目標になります。

一方、障害の重い児童生徒の場合、1～3つ程度の内容項目にしぼり、その学期を通して重点的に指導する場合や、複数の内容項目を関連付けて指導する場合があります。その場合は、学期で扱う複数の内容項目を網羅した目標にするか、内容項目ごとに①②③として複数の学期目標とするかのどちらかになります。

学期目標のパターン	学期で指導する内容項目例	目標の立て方
学期で 10 個以上の内容項目を指導する場合 (準ずる児童生徒や軽度知的の場合)	【自主、自律、自由と責任】 【節度、節制】 【向上心、個性の伸長】 【希望と勇気、克己と強い意志】 【思いやり、感謝】 【礼儀】 【遵法精神、公德心】 【勤労】 など	年間目標を見据えつつ 学期で指導する内容項目を網羅した目標を立てる 例 自らの将来の生き方に関わる道徳的諸価値を理解し、主体的に社会の形成に参画するための道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育む。
学期で 1～3つ程度の内容項目について指導の重点化を図り指導する場合 (障害の重い児童生徒の場合)	【善悪の判断、自律、自由と責任】 【節度、節制】 【規則の尊重】	年間目標を見据えつつ 内容項目ごとの目標を立てる 例 ①よいことと悪いことの区別をし、進んでよいことをしようとする意欲を育む。 ②物を大事にすることの大切さを理解し、身の回りの物を大切に使用しようとする態度を育む。 ③さまりの意義に気付き、進んでさまりを守ろうとする態度を育む。

「道徳の各発達段階における発達特性と中心的目標」で示した中心的目標のうち○は、その段階の内容項目のうち関連するものを結びつけた目標となっていますので、各学期の目標設定の参考にしてください。

発達段階	発達特性と中心的目標
I 段階 道徳性の土台期	<p>【発達特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定の大人（養育者）との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆が形成される。 特定の大人（養育者）を見て、その表情や行動・声の調子に基づいて自分の行動をコントロールしようとする。（社会的参照） <p>【中心目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎人との関わりの中で、道徳的な価値に気付いたり、感じたりして、よりよく人と関わるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。 ○人と関わる心地よさを感じ取り、人と関わろうとする意欲をもつ。 ○認められる行動やそうでない行動を判断し、望ましい行動をしようとする意欲をもつ。 など

③ 準ずる教育課程

準ずる教育課程の児童生徒（高等部を除く）の場合、個別の指導計画の目標は通知表に反映されず、通知表には評価のみが載る様式となっています。しかし令和4年度より準ずる教育課程の児童生徒の場合も、個別の指導計画の目標が通知表に転載される様式に変更になる見込みです。

準ずる教育課程の場合、年間を通して当該学年の内容項目を全て指導することになります。下学年代替の教育課程であっても特に必要がない場合は当該学年の内容項目を全て指導することには変わりなく、児童生徒の実態によって特に必要がある場合は、下学年の内容項目に置き換えて指導することができます。しかし、その場合であっても内容項目は全て扱うのが原則です。したがって、学期の目標や年間の目標を1つ～3つの内容項目に絞って立てることは不適切だと考えられます。そこで、児童生徒の実態（障害特性や発達段階、経験、社会性など）、児童生徒や保護者のニーズ、進路、既習内容等を踏まえて総合的に年間の目標を立てます。

その次に、各学期の目標を立てます。単に教科書に掲載された順番通り進めるのではなく、児童生徒の実態等を踏まえて学びやすい順番に配列し直します。この際、学校の行事や各教科等の年間計画も参照しながら年間指導計画を立てます。

下学年代替の教育課程で学ぶ中学部3年生の目標設定方法を例示します。生徒の実態把握と既習事項の確認の結果、中学部の中心目標を基にしつつ、一部は小学部の中心目標も参考に年間の目標を立案しました。

中学部 段階	【発達特性】 ・反抗期を迎え、大人との関係よりも友人関係に強い意味を見出すようになる。 ・性意識が高まり、異性への興味関心が高まる。 ・自我に目覚め、自ら考え主体的に判断し行動することができるようになり、人間としての生き方についての関心が高まってくる。 ・人生の悩みや葛藤などで心の揺れを感じやすい。 ・自意識と客観的事実との違いに悩み、葛藤する中で自らの生き方を模索しはじめる。
	【中心目標】 ◎道徳的諸価値について理解を深め、人間としてのよりよい生き方について考えながら他者とともによりよく生きるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。 ○自立心や自立性を高めて規律ある生活を送るようとする意識をもつ。 ○社会生活を送る上で必要な規範意識を身に付け、主体的に判断し、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲をもつ。 ○生命を尊重する心や自分の弱さを克服して気高く生きようとする気持ちをもつ。 ○自らの将来の生き方を考え、主体的に社会の形成に参画する意欲をもつ。 ○伝統と文化を尊重し、それらを育んでいく我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する気持ちや、国際社会を生きる日本人としての自覚をもつ。

年間目標

道徳的諸価値について理解を深め、人間としてよりよい生き方について考え、他者とともによりよく生きるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。

年間の目標に基づき、関連する内容項目ごとに配列しなおした教材に応じて、各学期の目標を立てます。例えば、1学期は新しいクラスになることから、人との関わりや集団との関わりについての内容項目を含んだ教材を中心に配列するなどが考えられます。また、2学期は文化祭や修学旅行が計画されていることから、これらと関連付けて集団や文化との関わりについて内容項目を配列し直しました。3学期は卒業を踏まえ自身の生き方に焦点を当てています。

年間目標

道徳的諸価値について理解を深め、人間としてよりよい生き方について考え、他者とともによりよく生きるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。

1 学期目標

人との関わりや集団参加に関する道徳的諸価値について理解を深め、人間としてよりよい生き方について考え、判断し、よりよい人間として他者とともに生きようとする意欲をもつ。

2 学期目標

集団活動や文化に関する道徳的諸価値について理解を深め、人間としてよりよい生き方について考え、判断し、よりよい人間として他者とともに生きようとする意欲をもつ。

3 学期目標

自分の生き方に関する道徳的諸価値について理解を深め、人間としてよりよい生き方について考え、判断し、よりよい人間として他者とともに生きようとする意欲をもつ。

準ずる教育課程・下学年代替の教育課程の児童生徒は、年間を通して全ての内容項目を指導することが原則であるため、どれか一つ・二つの内容項目に絞って目標を立ててしまわないよう注意します。ただし、各授業では内容項目を含んだ目標をより具体的に立てることが必要です。

学期の評価は、学びを見取る視点に即して見取った学習の取組状況のうち、顕著に見られた様子を書きます。各教科等が単元ごとに評価するのを原則としているのに対し、道徳科は年間または学期という長いスパンで見た取組状況の様子や道徳性に関する成長の様子を評価することになっています。この点は指導要録の評価に準じますが、短い期間では道徳性に関する成長は見取りにくいいため、各学期の評価では学習の取組状況のうち顕著に見られた様子だけを書きます。(ア)しかし、それだけでは、児童生徒や保護者にどのような学習をしたのか、その結果どのような成果が見られたのかがわかりません。そこで、具体的な授業でのエピソードを加えます。(イ)指導要録においては、特定の授業のエピソード等を書くことは避けなければなりません、通知表はこの限りではありません。ただし、その場合でも内容項目そのものを明記したり、児童生徒の道徳性そのものを評価するような記述をしたりしないよう特に注意が必要です。

通知表の評価（1 学期） 記入例

人との関わりや集団参加に関する道徳的諸価値について、実生活等に即した題材をスライド等で示すことで、自分の体験を振り返りながら考えることができた。ア

特に、「新しい友達」の授業では、小学校から転校してきた自分自身の経験を踏まえて教材の登場人物の気持ちを推し量り、その気持ちをワークシートに書いていた。イ

④ 知的障害・知的代替の教育課程

知的障害のある児童生徒に対する道徳科でも、全ての内容項目を指導する必要があります。しかし、児童生徒の実態によっては、学期を通して1つ～数個の内容項目に絞って、或いは複数の内容項目を関連させて指導することも考えられます。その場合でも全ての内容項目を指導できるよう留意し、毎年同じ内容項目にならないよう十分注意する必要があります。知的障害を併せ有する中学部1年生の目標の立て方を例示します。

年間の目標は、児童生徒の実態把握を踏まえ、「道徳の各発達段階における発達特性と中心的目標」を参考に立案します。中学部の生徒なので中学部段階を参照しますが、実態からそのまま当てはめることが難しいため、生徒の発達段階に近い小学部中学年段階の内容も参考にしました。ここで留意する点は、生徒の発達段階が小学部中学年程度であったとしても、小学部の目標をそのまま据えることは避ける必要があります。生徒の生活年齢に加え、中学部なら中学部の、高等部なら高等部の段階に応じた道徳性が求められると考えられるためです。

中学部 段階	<p>【発達特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反抗期を迎え、大人との関係よりも友人関係に強い意味を見出すようになる。 ・性意識が高まり、異性への興味関心が高まる。 ・自我に目覚め、自ら考え主体的に判断し行動することができるようになり、人間としての生き方についての関心が高まってくる。 ・人生の悩みや葛藤などで心の揺れを感じやすい。 ・自意識と客観的事実との違いに悩み、葛藤する中で自らの生き方を模索しはじめる。
	<p>【中心目標】</p> <p>◎<u>道徳的諸価値について理解を深め、人間としてのよりよい生き方について考えながら他者とともによりよく生きるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。</u></p> <p>○自立心や自立性を高めて規律ある生活をしようとする意識をもつ。 ○社会生活を送る上で必要な規範意識をもち、主体的に判断し、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲をもつ。 ○生命を尊重する心や自分の弱さを克服して気高く生きようとする気持ちをもつ。 ○自らの将来の生き方を考え、主体的に社会の形成に参画する意欲をもつ。 ○伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する気持ちや、国際社会を生きる日本人としての自覚をもつ。</p>

小学部 中学年 段階	<p>【発達特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に慣れ、行動範囲や人間関係が広がり活動的になる。 ・社会認識能力や思考力が発達し、視野が拡大する。 ・内省する心が育ってくる。
	<p>【中心目標】</p> <p>◎<u>道徳的諸価値の理解を基に、自分の生活や人との関わり方を振り返りながら、他者とともによりよく生きるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。</u></p> <p>○よいこととよくないことを自分で判断し、進んで正しいと判断したことを行おうとする意欲をもつ。 ○身近な人々と協力して助け合おうとする気持ちをもつ。 ○集団や社会のきまりを守ろうとする意識をもつ。 ○命の大切さを理解し、自然や美しいものに感動する心をもつ。</p>

年間目標

道徳的諸価値の理解を基に、人間としてのよりよい生き方について考えながら他者とともによりよく生きるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。

1学期目標

集団や社会のきまりの大切さを理解し、きまりを守ろうとする気持ちをもつ。

2学期目標

自分のことは自分でやる大切さを理解し、規律ある生活をしようとする意欲をもつ。

3学期目標

自らの良さに気づき、自分の生き方について考え、主体的な進路選択をしようとする意識をもつ。

⑤ 自立活動を主とする教育課程

自立活動を主とする教育課程では、児童生徒の障害の状態によって特に必要がある場合は、道徳科の目標と内容の一部を自立活動に置き換えて指導することができます。また、この教育課程の児童生徒の実態であれば、年間や学期を通して1つ～2つの内容項目を繰り返し指導することも効果的であることから、年間目標や学期目標に1～2つの内容項目を据えることは考えられます。しかし、その場合でも、内容項目をそのまま目標に据えるのではなく、他の内容項目と関連付けつつ、先にあげた目標の構成に書き換える必要があります。

例として重度重複障害のある小学部2年生の場合をあげます。「障害の重い子の道徳のステップ」において、Ⅰ段階—道徳性の土台期—に該当すると考えられる実態の児童です。そこで「道徳の各発達段階における発達特性と中心的目標」における、「Ⅰ段階」を参考にしました。

発達段階	発達特性と中心的目標
Ⅰ段階 道徳性の土台期	【発達特性】 ・特定の大人（養育者）との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆が形成される。 ・特定の大人（養育者）を見て、その表情や行動・声の調子に基づいて自分の行動をコントロールしようとする。（社会的参照）
	【中心目標】 ◎人との関わりの中で、道徳的な価値に気付いたり、感じたりして、よりよく人と関わるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。 ○人と関わる心地よさを感じ取り、人と関わろうとする意欲をもつ。 ○認められる行動やそうでない行動を判断し、望ましい行動をしようとする意欲をもつ。など

年間目標

人との関わりの中で、道徳的な価値に気付いたり、感じたりして、よりよく人と関わるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。

1学期目標

学級の担任との関わりに慣れ、人と関わる安心感をもつ。

2学期目標

学級の担任と関わり、心地よさや楽しさを感じ取って、人と関わろうとする気持ちをつ。

3学期目標

学級の担任と関わり、心地よさや楽しさを感じ取って、人と関わる心地よさに気づき、人と関わろうとする気持ちをもつ。

評価に関しては、準ずる教育課程の場合と同じです。但し、この段階の児童生徒はワークシート等に記述することが難しい場合がほとんどで、発語がない児童生徒も多いことから、授業の中で表情・発声・しぐさ等をよく記録しておくことが大切になります。その記録に基づいて、客観的に記述することになります。

通知表の評価（2学期） 記入例
<p>スキンシップ遊びを通して、担任が児童の反応に応答的な言葉かけをすることで、笑顔になることが多くなってきた。</p> <p>特に、「触れあって遊ぼう（スキンシップ遊び）」の授業は大好きで、担任が近づくと笑顔を見せたり、遊びの継続を求めて自ら手足を動かし担任に働きかけたりする様子がみられた。</p>

⑥ 手立ての立て方

手立てには主に次の情報を盛り込むとよいと考えます。

個別の指導計画における手立ての内容
1（下学年・知的代替等の場合）当該学年の内容に代替して扱う内容項目等の段階
2 学びを見取る場面を設けるための工夫（道徳的諸価値をわかりやすく理解できるようにする工夫 自分の経験に置き換えて考えられるような工夫、他の人の意見や考えに触れる工夫、自分がどうすべきか/どうしたいか考えられる工夫）
3 児童生徒の障害特性や認知特性への配慮（相手の気持ちの理解、読み物教材の読解の難しさ等）
4 児童生徒の経験不足を踏まえた工夫（経験のない小学校での集団生活を題材にした教材の変更等）

道徳の各発達段階における発達特性と中心的目標

発達段階	発達特性と中心的目標
Ⅰ段階 道徳性 の土台 期	<p>【発達特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定の大人（養育者）との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆が形成される。 特定の大人（養育者）を見て、その表情や行動・声の調子に基づいて自分の行動をコントロールしようとする。（社会的参照） <p>【中心目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎人との関わりの中で、道徳的な価値に気付いたり、感じたりして、よりよく人と関わるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。 ○人と関わる心地よさを感じ取り、人と関わろうとする意欲をもつ。 ○認められる行動やそうでない行動を判断し、望ましい行動をしようとする意欲をもつ。など
Ⅱ段階 自我の 芽生え と道徳 性への 気付き	<p>【発達特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる。自我が芽生え、自分の気持ちを優先させようとして衝突することがある。葛藤を経て思い通りにいかないことを学ぶ。 援助のもと自分でできることが増えてくる 周囲の子供等への興味・関心が出てくる ・「罪悪感」を感じるができるようになる <p>【中心目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎人と関わりながら生活するために必要な道徳的価値の存在に気付き、よりよく人と関わるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。 ○自分なりにしてみたいことを見つけ、活動に取り組もうとする意欲をもつ。 ○よいこととよくないことがあることに気付き、よいとされることをしようとする意欲をもつ。など
Ⅲ段階 道徳性 の芽生 え期	<p>【発達特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> いざこざを乗り越える経験から、相手の視点で行動を振り返ることができるようになってくる。 ・周りの大人の反応を見ながら善悪の基準を身に付けていく。 <p>【中心目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎周りの人と一緒に生活するために必要な道徳的価値に気付き、よりよく人と関わるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。 ○よいこととよくないことを判断し、進んでよいことをしようとする気持ちをもつ。 ○きまりの大切さに気づき、進んできまりを守ろうとする気持ちをもつ。など
小学部 低学年 段階	<p>【発達特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人が「してはならない」と言うことを守る中で、善悪についての理解と判断ができるようになってくる。 <p>【中心目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎身の回りの生活や人との関わりにおける道徳的諸価値について理解し、自分の生活や周りの人とよりよく関わり生活するための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。 ○基本的な生活習慣の意義や大切さを理解し、進んで望ましい生活習慣を身に付けようとする意欲をもつ。 ○よいこととよくないことを判断し、してはならないことをしないことや、社会生活上のきまりを守ろうとする意識をもつ。 ○命の大切さに気付き、自然や美しいものに感動する心をもつ。
小学部 中学年 段階	<p>【発達特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に慣れ、行動範囲や人間関係が広がり活動的になる。 ・社会認識能力や思考力が発達し、視野が拡大する。 ・内省する心が育ってくる。 <p>【中心目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎道徳的諸価値の理解を基に、自分の生活や人との関わり方を振り返りながら、他者とともによりよく生きるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。 ○よいこととよくないことを自分で判断し、進んで正しいと判断したことを行おうとする意欲をもつ。 ○身近な人々と協力して助け合おうとする気持ちをもつ。 ○集団や社会のきまりを守ろうとする意識をもつ。 ○命の大切さを理解し、自然や美しいものに感動する心をもつ。
小学部 高学年 段階	<p>【発達特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団における自己の役割を自覚するようになる。 ・対象との間に距離を置いた分析ができるようになり、自分のことも客観的に捉えられるようになる。 ・発達の個人差が大きくなり、自己肯定感が低くなりやすい。 ・閉鎖的な子供の仲間集団が発生し、付和雷同的な行動が見られる場合がある。 <p>【中心目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎道徳的諸価値についての理解を深め、自己の生き方を考えながら、他者とともによりよく生きるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。 ○自己や社会の未来への夢や目標を抱き、理想を求めて主体的に生きようとする意欲をもつ。 ○相手の考え方や立場を理解して支え合おうとする気持ちをもつ。 ○集団の一員としてよりよい集団生活の充実に努める意識をもつ。 ○伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重することに配慮する気持ちをもつ。

中学部 段階	<p>【発達特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反抗期を迎え、大人との関係よりも友人関係に強い意味を見出すようになる。 ・性意識が高まり、異性への興味関心が高まる。 ・自我に目覚め、自ら考え主体的に判断し行動することができるようになり、人間としての生き方についての関心が高まってくる。 ・人生の悩みや葛藤などで心の揺れを感じやすい。 ・自意識と客観的事実との違いに悩み、葛藤する中で自らの生き方を模索しはじめる。
	<p>【中心目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎道徳的諸価値について理解を深め、人間としてのよりよい生き方について考えながら他者とともによりよく生きるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。 ○自立心や自立性を高めて規律ある生活をしようとする意識をもつ。 ○社会生活を送る上で必要な規範意識をもち、主体的に判断し、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲をもつ。 ○生命を尊重する心や自分の弱さを克服して気高く生きようとする気持ちをもつ。 ○自らの将来の生き方を考え、主体的に社会の形成に参画する意欲をもつ。 ○伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する気持ちや、国際社会を生きる日本人としての自覚をもつ。
高等部 段階	<p>【発達特性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期の混乱から脱し、大人の社会でどのように生きるのかという課題に対して、真剣に模索するようになる。 ・特定の仲間集団の中では濃密な人間関係をもつが、集団の外の人に対しては無関心となり、社会や公共に対する関心が低くなりがち。
	<p>【中心目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎道徳的諸価値について理解を深め、人間としての在り方生き方について考えながら、主体的に判断し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための道徳的判斷力、心情、実践意欲と態度を育む。 ○自立心や自律性を高め、規律ある生活をしようとする意欲をもつ。 ○自らの個性・適性を伸ばしつつ、自分の生き方について考え、主体的な進路選択をしようとする意識をもつ。 ○他者の善意や支えへの感謝の気持ちをもち、それに応えようとする姿勢をもつ。 ○社会の一員としての自覚をもち、主体的に社会の形成に参画する意欲をもつ。 ○義務を果たし責任を重んじる態度及び人権を尊重し差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を身に付ける。 ○生命を尊重する心をもつ。 ○伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重すること、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付ける。

3. ゆっくり学ぶ子の道徳のステップ

I 段階—愛着・信頼関係による道徳性の土台期—対象発達年齢 1歳未満 内容項目

A 主として自分自身に関すること	
善悪の判断,自律,自由と責任	身近な大人の態度や表情等から、してよいこと・よくないことがあることに気付くこと
正直、誠実	伸び伸びと身体を動かそうとすること
節度、節制	清潔になることの心地よさを感じる 欲求が満たされ、安定感をもって過ごすこと
個性の伸長	身近な大人に、自分が受け入れられていると感じること
希望と勇気,努力と強い意志	身体を動かしたり声を出したりして自分から働きかけようとする
真理の探究	
B 主として人との関わりに関すること	
親切、思いやり	身近な大人の存在に気付き、親しみの気持ちを表すこと 他の子供の感情に気付き、感じ取って共鳴すること
感謝	
礼儀	
友情、信頼	身近な大人と関わる心地よさを感じ、安心感をもって過ごすこと
相互理解、寛容	
C 主として集団や社会との関わりに関すること	
規則の尊重	
公正、公平、社会正義	
勤労、公共の精神	
家族愛、家庭生活の充実	家族との関わりに心地よさや喜びを感じ、安心感をもって過ごすこと
よりよい学校生活、 集団生活の充実	教師との触れ合いや関わりに心地よさを感じ、安心感をもって過ごすこと 他の子供の存在に気付き、興味や関心をもつこと
伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度	
国際理解、国際親善	
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	
生命の尊さ	さまざまなものを見たり感じたりして心を動かすこと
自然愛護	
感動、畏敬の念	
よりよく生きる喜び	

I 段階—愛着・信頼関係による道徳性の土台期—対象発達年齢 1歳未満 支援のポイント

A 主として自分自身に関すること	
善悪の判断,自律,自由と責任	子供に伝わるようにメリハリのある表情・声の調子等で「ダメ」「いいよ」を伝える。
正直、誠実	安心して伸び伸び動ける環境を整える。興味関心を引く教材を用意する。
節度、節制	おむつや衣服を交換した時の心地よさを「さっぱりしたね」などの気持ちの伴った言葉かけとともに経験できるようにする。子供の声や表情、体の動きなどから欲求や感情を汲み取り、タイミングよく応えていく。
個性の伸長	温かい雰囲気の中で、子供の思いや欲求をありのままに受け止める関わりをする。
希望と勇気,努力と強い意志	応答的に関わったり、興味を高めたりすることで、子供の発信や探索への意欲を高める。
真理の探究	
B 主として人との関わりに関すること	
親切、思いやり	受容的・応答的に関わる。スキンシップ等を通して関わりを深める。
感謝	
礼儀	
友情、信頼	子供の欲求をくみ取り、タイミング良く応える。スキンシップを図る。子供の発信を受け止め、共感し、言葉に置き換えていく。
相互理解、寛容	
C 主として集団や社会との関わりに関すること	
規則の尊重	
公正、公平、社会正義	
勤労、公共の精神	
家族愛、家庭生活の充実	家族のことを話題にしたり教材にしたりして、家族の愛情に気付くように働きかける。必要に応じて保護者や家族に授業に参加してもらう等協力を得る。
よりよい学校生活、 集団生活の充実	一人一人の思いや欲求、感情を受けとめながら、応答的に関わる。他の子供の様子が見たり感じたりできるように活動や場を工夫する。
伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度	
国際理解、国際親善	
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	
生命の尊さ	自立活動等との関連を図って指導する。
自然愛護	
感動、畏敬の念	
よりよく生きる喜び	

I 段階—愛着・信頼関係による道徳性の土台期—対象発達年齢 1歳未満 解説

A 主として自分自身に関すること	
善悪の判断, 自律, 自由と責任	発達段階が0歳台後半になると、どのような行動が認められるのか、認められないのかを身近な大人の表情や行動・声の調子に基づいて判断しようとするようになる（「社会的参照」という）。（B p57）
正直、誠実	教師に気付いて手足をばたつかせたり、興味を引かれたものをつかもうと懸命に体を動かそうとしたりして、体を動かすことを楽しむことを意味している。（保 p91）動き方や動かす程度を指しているのではない。
節度、節制	清潔になることの心地よさを毎日何度も繰り返し感じることで清潔に対する感覚が育つ。（保 p97）子供は自分のしてほしいことが受け止められ、心地よくなえられると安心し、信頼感が育まれる。（保 p102）
個性の伸長	自分を肯定する気持ちは、教師が子供一人一人を尊重し、温かい雰囲気の中で、その思いや欲求をありのままに受け止めるという関わりを重ねることで芽生えていく。（保 p106）
希望と勇気, 努力と強い意志	子供が自分の働きかけを通して心地よさや快適さを味わう経験を重ねることが、探索への意欲を高める。（保 p91）
真理の探究	
B 主として人との関わりに関すること	
親切、思いやり	この段階の子供は、愛情を込めて受容的に関わる大人とのやり取りを、徐々に楽しむようになり、そうした大人との間に愛着関係が築かれる。（保 p104） 他の子供が泣くのを見て一緒に泣いてしまうなど、他の子供の感情に共鳴したり共振したりすることはこの段階の子に見られる様子の一つである（A p22）。保育所保育指針には明記していないが、他者の感情理解の芽生えとして挿入した。
感謝	
礼儀	
友情、信頼	大人への基本的信頼感を培うことは人と関わる力の基盤として極めて重要な発達課題である。これは身近な大人による受容的・応答的な関わりを通して培われる。（保 p101）
相互理解、寛容	
C 主として集団や社会との関わりに関すること	
規則の尊重	
公正、公平、社会正義	
勤労、公共の精神	
家族愛、家庭生活の充実	保育所保育指針には家族との関わりについては特に記載がないが、この段階の子供が、大人との愛着形成が重要であることから家族との関係に置き換えて記した。
よりよい学校生活、 集団生活の充実	この段階の子供にとって大人への基本的信頼感を培うことは特に重要である。とりわけ担任等特定の大人との安定した関係を基盤にして、次第に他の子供に対しても関心をもつようになる。（保 p104）
伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度	
国際理解、国際親善	
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	
生命の尊さ	この内容項目に関しては、保育所保育指針等に関連するものがないものの、見たり感じたりしたものに驚いたり、喜んだりすることが、この内容項目の土台になると考えられるため独自に挿入した
自然愛護	
感動、畏敬の念	
よりよく生きる喜び	

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針』

A 岩立京子・西坂小百合編『保育内容 人間関係』光生館（2018）

B 上地完治編『道徳教育の理論と実践』ミネルヴァ書房（2020）

Ⅱ 段階—自我の芽生えと道徳性への気付き期—対象発達年齢 1歳～3歳 内容項目

A 主として自分自身に関すること	
善悪の判断、自律、自由と責任	思い通りにいかない場合があることに気付くこと 経験を通して、よいことよくないことがあることに気付くこと よくないことをしてしまった場合に罪悪感（ばつの悪さ）を感じることに気付くこと
正直、誠実	明るく伸び伸びと生活すること
節度、節制	健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちをもつこと 思い通りにいかない時に、立ち直ったり感情をコントロールしたりすることに気付くこと
個性の伸長	自分なりにしたいことに取組み、自分でできた実感したり達成感を味わったりすること
希望と勇氣、努力と強い意志	自分なりにしたいことを見つけ、自分の力でしてみようとする
真理の探究	
B 主として人との関わりに関すること	
親切、思いやり	他者の気持ちに共感したり、慰めたり助けたりしようとする
感謝	周りの人の支援や親切な行為を心地よいものとして受け入れること 周りの人の支援や親切な行為の背景にある温かい気持ちに気付くこと
礼儀	明るく親しみをこめた挨拶に心地よさを感じ、親しみをもちて挨拶に応じること 周りの人が挨拶を交わしていることに気付く、自らも挨拶しようとする
友情、信頼	身近な人と関わり合うことの楽しさや一緒に過ごすことの喜び、安心感をもつこと 周りの教師や友達に興味・関心をもち、自ら関わろうとしたり、遊ぼうとしたりすること
相互理解、寛容	自分の気持ちに気付き、相手に伝えること 相手にも気持ちがあることに気付くこと 身の回りに様々な人がいることに気付く、人には皆違いがあるということを感じ取る
C 主として集団や社会との関わりに関すること	
規則の尊重	自分と他者の気持ちの違いに気付き、人と過ごすために約束やきまりがあることや、その大切さに気付くこと
公正、公平、社会正義	
勤労、公共の精神	
家族愛、家庭生活の充実	家族との関わりに心地よさや喜び、楽しさを感じ、安心感をもって過ごすこと
よりよい学校生活、 集団生活の充実	教師や友達との触れ合いや関わりに心地よさや楽しさを感じ、安心感をもって過ごすこと
伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度	近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつこと 我が国や地域社会における様々な文化や伝統に触れること
国際理解、国際親善	
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	
生命の尊さ	身近な生き物に気付き、親しみをもちつこと
自然愛護	
感動、畏敬の念	
よりよく生きる喜び	

Ⅱ 段階－自我の芽生えと道徳性への気付き期－対象発達年齢 1歳～3歳 支援のポイント

A 主として自分自身に関すること	
善悪の判断, 自律, 自由と責任	悲しんだり怒ったりといった不安定な感情の表出であっても、安易に気持ちの切り替えを促すのではなく、「悲しいね」「悔しいね」などと十分に時間をかけて受け止め、子供なりに取り組んでいる姿を認めたり、一緒に行動しながら励ましたりする。善悪の判断は大人の判断基準が大きく影響するので、よいものはよい、悪いものは悪いと毅然として伝える。悪いことをしてしまった子供には、傷ついた相手の気持ちを教師が代弁するなど、相手の痛みを感じられるようにする。
正直、誠実	子供の意思を尊重し、安心して物事に取り組むことができる環境をつくる。
節度、節制	最初はできなくても、子供の思いやペースを尊重して丁寧に関わる。自分でできた時の達成感や心地よさを味わえるようにする。思い通りにいかないことに対して子供が不安定な感情になる場合は、安易に気持ちの切り替えを促すのではなく、子供の感情を受容的に受け止め、子供なりに取り組んでいる姿を認めたり、一緒に行動しながら励ましたりする。
個性の伸長	好きな活動ややってみみたい活動が十分できる機会を設ける。「できること」「できないこと」の見極めが難しい段階であるので、できないことであっても自分でやりたいという気持ちを大切に、必要な支援を行って自分でできたという達成感や喜びを味わえるようにする。
希望と勇気, 努力と強い意志	子供が興味関心をもったことや、子供一人一人の行動や思いを認め、期待をもって見守る。必要に応じて教師の思いや考えを伝える。
真理の探究	
B 主として人との関わりに関すること	
親切、思いやり	機会のあるごとに繰り返し相手の気持ちに気付くような言葉かけを行う。
感謝	受容的・応答的な関わりで、子供が安心して過ごせるようにする。
礼儀	まず教師が毎朝笑顔で温かく迎えることを通して、挨拶を通して人と関わることの心地よさや楽しさを感じられるようにする
友情、信頼	身近な大人である教師との信頼関係を築き、教師を介して他の子供と関わる場面を設ける。同じものに興味を示した子供同士がものを介してやり取りが生じるよう場面を設定する。
相互理解、寛容	いろいろな子供、保護者、高齢者、多様な年代の人、外国人などと関わり、心を動かすような体験ができるようにする。それぞれの人の特性や多様性を実体験で気付けるようにする。
C 主として集団や社会との関わりに関すること	
規則の尊重	他の子供とのいざこざに際し、直ちにきまりを伝えたり、守らせたりするのではなく、子供思いを十分に受け止め、相手の思いもあることに気付くようにする。
公正、公平、社会正義	
勤労、公共の精神	
家族愛、家庭生活の充実	家族のことを話題にしたり教材にしたりして、家族の愛情に気付くように働きかける。必要に応じて保護者や家族に授業に参加してもらう等協力を得る。
よりよい学校生活、集団生活の充実	教師が温かく受け入れると同時に子供の居場所を確保する。まず教師との信頼関係の構築に努め、徐々に他の生徒との関わりにつなげる。子供が学校生活の何に心地よさを感じるのか、誰と関わると安定するのか把握する。他の子供の存在に気付けるよう場を共有する。
伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	わらべうたや昔話などその季節や文化を取り入れた遊びや学習を行ったり、行事食を体験したり、地域の祭りや伝統（エイサーなど）を行事等に取り入れたりする。教師が地域の伝統と一緒に楽しむことで親しみをもてるようにすることが大切である。
国際理解、国際親善	
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	
生命の尊さ	動植物を実際に見たり、触ったりしてその手触り、重さ、大きさ、におい、動き、鳴き声などの様々な感覚を直接的に体験できるようにする。また生き物を飼うことで、その世話を手伝ったりしながら慣れ親しむようにする。子供が乱暴な扱いをしてしまう場合には、生命の尊さに触れる機会と捉え、根気強く丁寧に対応ことが求められる。
自然愛護	
感動、畏敬の念	
よりよく生きる喜び	

Ⅱ 段階—自我の芽生えと道徳性への気付き期—対象発達年齢 1歳～3歳 解説

A 主として自分自身に関すること	
善悪の判断,自律,自由と責任	この発達段階の重要な発達課題が思い通りにならないことがあることに気付くことである。(保p143) 自分の欲求が優先する場合が多く、トラブルになりやすい。トラブルは重要な学びの機会であり、自分の欲求が通らず葛藤する経験が大切である(Ap114)。【規則の尊重】と関連させながら指導したい。この段階になると過去の経験から未来の結果を予測できるようになってくる。叱られたり褒められたりした経験を通して、よいこと・よくないことがあることに気付いていく。よいこと・よくないことの判断は他律的で、教師などの身近な大人の判断基準に大きく影響を受ける。規則に基づいて自律的に判断し、行動をコントロールしていくのはまだ難しい(Bp58)。罪悪感については保育所保育指針には記述がないものの、この段階の重要な発達課題であるため挿入した。1歳台からみられるようになる罪悪感、照れ、恥の感情は自分の行為を自己評価する役割として機能する。特に罪悪感、悪いことをされた人が傷つき、心を痛められたことを知らせ、それを癒す適切な言葉と行為を考えさせる機能をもつ。責任を取るということを気付かせる罪悪感、人格と心理的成長を促す。(Bp59)
正直、誠実	身近な大人から一人の人間として自分の意思が尊重され、安心して様々な物事に取り組むことができる環境の下、自分でしてみようとする気持ちをもつ。(保p123)
節度、節制	安定した生活リズムの中で、健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ。(保p123) 一方、この段階の子供は思い通りにいかない場合、悲しんだり、怒ったり感情が不安定になりやすい。教師が子供の感情に対して、十分に時間をかけて受容的に受け止めることで、子供は安心して自分の素直な感情を表出し、教師と共に自分の気持ちに向き合いながら、不安定な気持ちから立ち直るようになる。現実の状況と折り合いを付ける経験を重ねることで、自分の感情をコントロールすることへの気付きが生まれる。(保p143)
個性の伸長	この段階の子供は、何でも自分でやりたがるようになる。温かく受容され、応答された経験に基づく自己を肯定する力の表れである。教師の支援を借りながらも、自分でできることが増えていくと自信につながる。(Ap24)
希望と勇気,努力と強い意志	身近な大人から一人の人間として自分の意思が尊重され、安心して様々な物事に取り組むことができる環境の下、子供は今の自分もっている心身の力を存分に発揮して、自分でしてみようとする気持ちを強くしていく。(保p123、137)
真理の探究	
B 主として人との関わりに関すること	
親切、思いやり	少しずつ相手の気持ちに気付く段階であるが個人差が大きい。教師は繰り返し相手の気持ちに気付くよう言葉かけを行う必要がある。(Ap117)
感謝	保育所保育指針には特に記載がないが、周りの大人の受容的で応答的な関わりを通して、その背景にある周りの大人の思いや愛情等に気付くことが考えられる。
礼儀	挨拶の方法そのものを教えることも大切だが、教師が毎日温かく迎えてくれる笑顔や挨拶に気付き、それを心地よいと感じられる体験を重ねることが大事である。そうした関わりを通して、自ら関わりをもとうとする意欲を育むことが大切である。(保p135)
友情、信頼	身近な大人との愛着を拠りどころにして、周囲の同年代の子供等に興味を示し、自ら関わりをもとうとするようになる。その中で人と関わり合うことの楽しさや一緒に過ごす喜び、安心感を味わう。(保p135)
相互理解、寛容	それぞれ異なる個性をもった他の子供や保護者、高齢者、多様な年代の人、外国人などと接し、それぞれの人の特性や多様性に気付く。(保p138)

C 主として集団や社会との関わりに関すること	
規則の尊重	きまりの大切さに気付くことはこの段階の子供にとって重要な発達課題の一つである。他者との間に生じる葛藤などの体験を通じて、自分の思い通りにならない場合があること、他者にも感情や思いがあることに気付き、お互いが気持ちよく過ごすためにきまりが必要なこと気付けるようにする。(保p140)
公正、公平、社会正義	
勤労、公共の精神	
家族愛、家庭生活の充実	保育所保育指針には家族との関わりについては特に記載がないが、この段階の子供が、大人との愛着形成が重要であることから家族との関係に置き換えて記した。
よりよい学校生活、 集団生活の充実	子供は自分を温かく受け入れてくれる教師等との信頼関係に支えられて自分の居場所を確保し、安心感をもって学校生活を過ごせるようになる。それぞれに心地よさを感じられる相手との関係性を抛りどころに、学校での生活に親しみをもつようになり、他の人とも関わりを広がっていく。(保p136)
伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度	教師や友達と共に季節や折々の文化、行事に触れて、その雰囲気味わったり、楽しんだりする経験を通して、自分を取り巻く地域の自然や伝統文化などに興味を向けるようになる。(保p152)「国や地域の～」については、保育所保育指針においてこの年齢段階では示されていないものの、学校生活においては、その発達段階を問わず行事等を通して国や地域の文化や伝統に触れる機会が多いことから挿入した。
国際理解、国際親善	
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	
生命の尊さ	子供は、教師と共に身近な動植物を実際に見たり、触ったりすることを通して、それらに親しみや興味をもつ。手触り、重さ、大きさ、におい、動き、鳴き声などの様々な感覚を直接的に体験し、動植物の美しさや力強さ、はかなさ、可愛らしさなどに驚きや感動を味わい、心を動かされるのである。(保p151)
自然愛護	
感動、畏敬の念	
よりよく生きる喜び	

参考文献

A 岩立京子・西坂小百合編『保育内容 人間関係』光生館(2018)

B 上地完治編『道徳教育の理論と実践』ミネルヴァ書房(2020)

Ⅲ段階—道徳性の芽生え期—対象発達年齢 3歳～6歳 内容項目

A 主として自分自身に関すること	
善悪の判断,自律,自由と責任	よいことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動しようとする
正直、誠実	うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること
節度、節制	健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動しようとする 自分でできることは自分ですること 身近な物を大切に使うこと
個性の伸長	自分のよさや特徴に気付くこと
希望と勇氣,努力と強い意志	自分でできることは自分でしようとする いろいろな活動を楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつこと
真理の探究	
B 主として人との関わりに関すること	
親切、思いやり	自分の気持ちとは異なった他者の気持ちを理解した上で共感や思いやりのある行動をしようとする
感謝	家族など日頃世話になっている人々の気持ちに気付くこと
礼儀	挨拶を交わす心地よさと大切さに気づき、親しみをもって日常の挨拶をすること
友情、信頼	友達と共に過ごすことの喜びを味わうこと
相互理解、寛容	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付くこと 友達のよさに気付くこと 友達と共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりする楽しさを感じる
C 主として集団や社会との関わりに関すること	
規則の尊重	きまりの大切さに気づき、守ろうとする
公正、公平、社会正義	
勤労、公共の精神	役に立つ喜びを感じる
家族愛、家庭生活の充実	家族を大切にしようとする気持ちをもつこと
よりよい学校生活、 集団生活の充実	先生や友達と親しみ、関わりを深め、一緒に活動する楽しさを味わうこと
伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度	我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむこと
国際理解、国際親善	
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	
生命の尊さ	身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりすること
自然愛護	自然に触れて、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付くこと
感動、畏敬の念	美しいものに触れたり、様々な体験をしたりする中で心を動かすこと
よりよく生きる喜び	

Ⅲ段階—道徳性の芽生え期—対象発達年齢 3歳～6歳 支援のポイント

A 主として自分自身に関すること	
善悪の判断,自律,自由と責任	生活の中で起こるいざこざの場面で、あるいはいざこざの例を取り上げて、相手や周囲の人の気持ちを考えたり、相手の視点から自分の行動を振り返ったりするよう促す。相手の気持ちを代弁したりして気持ちに気付けるようにする。その上で、子供が何をしなければならなかったのか、その行動の何が悪かったのかを考えることができるよう働きかける。特に、人としてしてはいけないことは「悪い行為である」ということを明確に示す。
正直、誠実	日ごろの信頼関係を土台とし、気持ちに共感的に関わることで、安心感をもって自分の気持ちを伝えることができるようにし、振り返りや反省を促す。
節度、節制	子供の自分でやってみたいという気持ちを尊重し、やったらできたという充実感や満足感を味わえるようにする。全部を一人でできない場合は、途中まで教師が支援し、最後を自分でやれるようにして達成感を味わえるようにする。必要以上に支援しすぎない。
個性の伸長	日々の生活の中で子供のありのままの姿を認める。子供のよさを認める。その子供なりに取り組んでいる姿を認める。子供相互によさを認め合う機会を設ける。
希望と勇気,努力と強い意志	子供が主体的に取り組める楽しい活動を設定する。途中でうまくいかなくなったり、やり続ける気持ちがなくなったりした時は必要に応じて適切な支援を行う。
真理の探究	
B 主として人との関わりに関すること	
親切、思いやり	友達と関わり、感情的な行き違いや自他の欲求が対立する場面で指導することが効果的。思いやりのある行動をしたいと思える友達ができるよう子供同士の関わりを援助する。
感謝	日頃世話になっている人の親切心や温かい気持ちに気付けるように教材や活動を工夫する。
礼儀	教師が気軽に言葉を掛け、感謝やお礼の気持ちを言葉で伝える姿を示す。挨拶とともに出会いを喜んだり気にかけてたりすることで、挨拶を交わす心地よさを味わえるようにする。
友情、信頼	教師との信頼関係の構築を図った上で、仲の良い友達をもてるよう、友達との関わりを深められるように支援する。
相互理解、寛容	必要に応じて教師が仲介役になり思いを伝える。子供同士が心を動かす出来事を共有できるような場を設定する。共有の願いや目的が生まれる活動を設ける。
C 主として集団や社会との関わりに関すること	
規則の尊重	日々の生活の中で、きまりを守らなかったために起こった問題に気付かせ、きまりの必要性を考えるよう促す。ルールを守ることで友達との活動が楽しくなるという実感を持たせる。
公正、公平、社会正義	
勤労、公共の精神	掃除などを通して、「ありがとう」と感謝される経験を味わえるようにする。
家族愛、家庭生活の充実	必要に応じて家族を招いて授業を行い、保護者の協力を得る。
よりよい学校生活、 集団生活の充実	教師との信頼関係を構築する。教師や友達と共に楽しさや充実感を味わう活動を工夫する。
伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度	例えば、教師と一緒に飾りを作りながら七夕の由来を聞くなどして、そのいわれやそこにこめられている人々の願いを伝える。地域の人の実演を見る機会をつくる。
国際理解、国際親善	
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	
生命の尊さ	身近な動植物を実際に世話したり、一緒に遊んだり、育てたりする経験をする。生命の誕生や終わりに遭遇した場合に、そのことを授業で取り上げる。
自然愛護	できるだけ身近な自然に触れる機会を多くし、子供なりにその大きさ、美しさ、不思議さなどを全身で感じ取る体験を設ける。
感動、畏敬の念	日常生活の中で出会う様々な事物や事象、文化から感じ取るものやそのときの気持ちを友達や教師と共有する。
よりよく生きる喜び	

Ⅲ段階—道徳性の芽生え期— 対象発達年齢 3歳～6歳 解説

A 主として自分自身に関すること	
善悪の判断,自律,自由と責任	<p>いざこざなどうまくいかないことを乗り越える体験を重ねながら、相手の視点から自分の行動を振り返ったりして考えながら行動するようになっていく。(幼p60) この段階の子供は、他者と関わる中で、自他の行動に対する様々な反応を得て、よい行動や悪い行動があることに気付き、自分なりの善悪の基準をつくっていく。特に、信頼する大人がどう反応するかは重要であり、大人の諾否に基づいて善悪の枠をつくり、また、それを大人の言動によって確認しようとする。したがって、教師は子供が何をしなければならなかったのか、その行動の何が悪かったのかを考えることができるような働きかけをすることが必要である。</p> <p>(幼p177) 前段階では、思い通りにならないことがあることに気付くことが重要な発達課題であったが、この段階になると、周囲からの期待に応えたいという「第二の自我」が芽生え、自分の思い通りにしたいという自我と自己内対話を通して葛藤するようになる。この葛藤体験は成長のために重要である。たくさんの葛藤体験を経て、折り合いを付け、気持ちを立て直すことができるようになることが、この段階の発達課題といえる。(Ap56)</p> <p>関連して、この段階の子供は他律的な道徳性をもつ時期であり、信頼している大人の言うことは全て正しいと思って従う傾向が強い。したがって、一見正しい行いをしているようでも、その意味がわかっていないこともある。善悪の判断やルールを守る大切さに気付き、自分で考えて行動する主体性を育てることが重要である。さらに、悪いとわかっていても、自分の行動を抑制できるわけではなく、わかっていても自分の都合を優先したり、感情に左右されたりしてルールを守れないことも多いという発達段階も考慮する。(Ap72) 加えて、この段階の善悪判断は、意図や動機といった内面よりも、目に見える結果に基づいて判断する傾向にあることにも留意しておく(例えば禁止されていた行為をしてコップを1個割ってしまった子よりも、知らずに15個のコップを割ってしまった子の方が悪いと判断するなど、その意図や動機よりも結果に基づき判断する)。(Bp64)</p>
正直、誠実	<p>幼稚園教育要領には関連する記載がないものの、発達段階から考えて特に差支えないと考えられるため小学校1・2年の内容項目をそのまま適用した。ただ、実際の指導にあたっては、この段階の子供の発達段階を考慮し、日ごろの信頼関係を土台とし(幼p177)、気持ちに共感的に関わることで、安心感をもって自分の気持ちを伝えることができるようにし、振り返りや反省を促すことが重要と考える。</p>
節度、節制	<p>小学校1・2学年の内容項目に関連するものを幼稚園教育要領から抽出した。「健康、安全な生活～」とは、身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でしようとし、健康な生活のリズムを身に付けることである。(幼p152他)「見通しをもつ」ことは、規則正しい生活をするにつながる。「自分でできることは自分でする」ことは、前段階の内容から継続・発展し、小学校の内容項目に接続するものである。「物を大切に使う」ことも小学校の内容項目に接続する内容として、抽出した。この段階の子供は、何でも自分でやりたがる傾向にある。一見わがままのように見えるが、自我が芽生えている姿であり、自分の力でやろうとする意欲の表れである。この場合、単に何かを「できる」、「できない」ということのみが問題ではなく、あくまでも自分でやりたいことを意識し、自分が思ったことができたということを楽しむ気持ちが大切である。やったらできたという充実感や満足感を味わうことが自立の第一歩である。(幼p170) 支援のやりすぎは、子供の自立心を妨げる結果となるので十分配慮が必要である。全部を一人でできない場合は、途中まで教師が支援し、最後を自分でやれるようにして達成感を味わえるようにする。中学部・高等部の生徒は卒業後の自立も考慮して、自分でできないことは支援者の支援を得ながら自分でやろうとする意識を育てる。</p>
個性の伸長	<p>子供は、周囲の人々に温かく見守られ、ありのままの姿を認められている場の中で、安心感をもって自分らしい動き方ができるようになる。日々の生活の中で、その子供なりのよさを</p>

	捉える教師のまなざしに支えられ、自分のよさや特徴に気付き、自信をもって行動することができるようになっていく。また他の子供からもその子供のよさを認められることにより、更に自信を高めていく。自分が認められることで友達のよさも認められるようになっていく。(幼p184)
希望と勇気,努力と強い意志	「自分でできることは～」は、【節度、節制】の項目と同じである。「いろいろな活動を楽しみながら～」は、遊びや楽しい活動を通して達成感を味わうことで、次の活動に取り組む際にもやり遂げようとする気持ちをもてるようにすることを指している。やり続ける気持ちが続かず、止めてしまう時にも、教師に見守られ、適切な支援を受けることで諦めずにやり遂げることができる。このような体験を重ねることで、子供は難しいことでも諦めずにやり遂げようという粘り強く取り組む気持ちをもったり、前向きな見通しをもって自分で解決しようとする気持ちをもったりして、自立心や責任感も育まれていく。(幼p171)
真理の探究	
B 主として人との関わりに関すること	
親切、思いやり	思いやりの基盤となる「他者の気持ちへの共感」「相手を慰めたり、助けようとする行為」は前段階(1歳～3歳の発達段階)の子供にも現れる。しかし前段階では自分と他者の気持ちの区別ができず、自分にとっていいことは他者にとってもいいことと思ってしまうため、直ちに適切な行動をとるようにすることは困難である。それに対しこの段階では、自他の気持ちや欲求は異なることが分かるようになり、自分の気持ちとは異なった他者の気持ちを理解したうえで共感や思いやりのある行動ができるようになってくる。ただし、これには個人差が大きく、6歳段階で7～8割段階に留まるという研究結果もある。(Cp56) 特別支援学校の子供たちは、他の子供たちとの関わり方の経験がどうしても少なくなる傾向にあるため、十分に時間をかけて指導する必要があると考える。自己中心的な感情理解ではなく、相手の立場に立って考えられるようになるためには、友達と関わり、感情的な行き違いや自他の欲求の対立というような経験も必要である。また、子供は、一緒にいたいと思える友達がいるときに、その友達に対して共感し、思いやりのある行動をする傾向があるので、友達との関わりを深められるように支援することが重要である。(幼p178)
感謝	幼稚園教育要領には記載がないが、感謝の気持ちをもつためには、日ごろ世話になっている人々の温かい気持ちに気付くことが前提となると考えるため挿入した。
礼儀	挨拶を交わす心地よさと大切さに気付き、親しみをもって挨拶するとは、挨拶が単に形式的なものではなく、出会いを喜び合う朝の挨拶、別れを惜しみ再会を楽しみにする帰りの挨拶、相手のことを心配したり、元気になったことを喜んだりするなど、気持ちを伝えあう機能があることに気付き、その心地よさを感じることを大事である。そして挨拶がその機能によって互いの親しさを増す効果があることに気付き、その大切さに気付くことが重要である。(幼p220)
友情、信頼	この段階になると、初めは同じ場所にいるだけだった他の子供とも言葉を交わすなど関わりが生まれてくる。その関わりの中で友達と共にいる楽しさや充実感を味わい、次第に皆と生活をつくり出していく喜びを見出していく。(幼p168) 気の合う友達や一緒にいたいと思う友達ができ、そうした友達に対して、共感し、思いやりのある行動をする傾向がある。共によく遊ぶ仲の良い友達をもつことが重要である。(幼p178)
相互理解、寛容	小学校1・2学年の内容項目には設定がないものの、この段階で育てたい姿として盛り込んだ。「自分の思ったことを相手に伝え～」では、いつまでも教師や保護者が気持ちを汲み取ってくれていたようには自分の思いは伝わらないものであるから、自分で伝える大切さに気付くことが重要である。また、思いを伝えることで親しみをもつという循環の過程を経験することも、自分で伝える大切さに気付くために必要である。反対に相手の思っていることについても、気付くことでお互いの親しみが増していくことを経験することが大事である。(幼p174)「友達のよさに気付くこと」では、自分と異なる個性をもった友達と接することで、次第に互いの心情や考え方などの特性に気付くことである。(幼p175)「友達と共通の目標を見出し～」では、他の子供と楽しく活動することを通して、互いのよさや特性に気付き、友達関係を形成しながら、次第に人間関係を深めていくことを指している。人間関係が深まるにつれて、子供同士がイメージや思いをもって交流し合いながら、そこに共通の願いや目的が生まれる。そして、それに向かって活動を展開する中で、子供同士が共に工夫したり、協力したりすることの大切さを実感することが大事である。(幼p176)

C 主として集団や社会との関わりに関すること	
規則の尊重	「きまりの大切さに気付く」とはきまりの必要性が分かるということである。単に守らないと叱られるからという理由できまりを守るのではなく、日々の生活の中できまりを守らなかったことによって起こった問題に気づき、きまりの必要性を理解できるようにすることが大事である。楽しい活動の中で、ルールを守ると友達との遊びが楽しくなるという実感をもてるようにすることが大切である。(幼p179)
公正、公平、社会正義	
勤労、公共の精神	幼稚園教育要領「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から抜粋した。学校の周りを掃除したりして地域の人から「ありがとう」などと言葉を掛けてもらうことなどを通して役に立つ喜びを感じるようになるとしている。(幼p62)
家族愛、家庭生活の充実	幼稚園教育要領「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から抜粋した。(幼p62)
よりよい学校生活、 集団生活の充実	子供は自分を温かく受け入れてくれる教師との信頼関係を基盤に自分の居場所を確保し、安心感をもって過ごせるようになる。教師との信頼関係を基盤に教師や友達と共にいる楽しさや充実感を味わい、次第に皆と生活を作り出していく喜びを見出していく。(幼p167-168)
伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度	日常生活の中で我が国や地域社会における様々な文化や伝統に触れ、長い歴史の中で育んできた文化や伝統の豊かさに気付くことが大切である。(幼p200)
国際理解、国際親善	
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	
生命の尊さ	親しみやすい動植物に触れる機会をもたせるとともに、教師など周囲の人々が世話をする姿に接することを通して、次第に身近な動植物に親しみをもって接するようにし、実際に世話をすることによって、いたわったり、大切にしたりしようとする気持ちを育てる。小動物と一緒に遊んだり、世話をする体験をしたり、生命の誕生や終わりに遭遇したりすることも子供の心をより豊かに育てる意味で大切な機会となる。(幼p199)
自然愛護	自然に触れて活動する中で、子供は全身で自然を感じ取る体験により、心がいやされると同時に、多くのことを学んでいる。できるだけ身近な自然に触れる機会を多くし、子供なりにその大きさ、美しさ、不思議さなどを全身で感じ取る体験をもつようにする。(幼p195)
感動、畏敬の念	幼稚園教育要領の内容「表現」から抽出した。(幼p233)
よりよく生きる喜び	

参考文献

- 幼 文部科学省『幼稚園教育要領 解説』(2018)
- A 岩立京子・西坂小百合編『保育内容 人間』光生館(2018)
- B 上地完治編『道徳教育の理論と実践』ミネルヴァ書房(2020)
- C 神長美津子編『心を育てる幼児教育—道徳性の芽生えの育成—』東洋館出版社(2004)

4. 道徳教材として活用できる絵本リスト

A 主として自分自身に関すること		
価値項目・内容	「本の題名」・作者・出版社名	ねらい
善悪の判断、自律、自由と責任 (1) 良いことと悪いことを区別し、良いと思うことを進んでおこなうこと	「ノタンぱっぱらばなし」 キヨノサチコ作 偕成社 (道徳 教科用図書)	気持ちよく生活を送るためにできることを考えて、すすんで生活の中で行おうとする態度を育てる。
正直、誠実 (2) うそをついたりごまかしたりしないで、素直にのびのびと生活すること	「ノタンぶらんこのせて」 キヨノサチコ作 偕成社 (道徳 教科用図書)	自分のできないことや苦手なことを、ごまかさずに素直に認めようとする心情を育てる。
節度、節制 (3) 健康や安全に気をつけ、物や金銭を大切に身の周りを整え、わがまましないで規則正しい生活をする	「ノタンおやすみなさい」 キヨノサチコ作 偕成社	規則正しい生活の良さに気づき、生活の中で進んで行動しようとする態度を育てる。
個性の伸長 (4) 自分の特徴に気付くこと	「ねえ、どっちがすき？」 安江リエ作 福音館書店	自分の好きな物や好きな事に気づき、自分自身の個性を大切にしようとする心情を育てる。
希望と勇気、努力と強い意志 (5) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行うこと	「はじめてのおつかい」 筒井頼子作 福音館書店	自分の好きなこと、頑張りたいことを最後まで諦めずに、やり遂げようとする態度を育てる。

B 主として人との関わりに関すること		
価値項目・内容	「本の題名」・作者・出版社名	ねらい
<p>親切、思いやり</p> <p>(6) 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること</p>	<p>「どうぞのいす」</p> <p>香山美子 作 ひさかたチャイルド</p>	<p>自分以外の相手の嬉しさや喜ぶ気持ちを想像しながら接しようとする態度を育てる。</p>
<p>感謝</p> <p>(7) 家族など日頃お世話になっている人に感謝すること</p>	<p>「おかあさんありがとう」</p> <p>みやにしたつや 作 金の星社</p>	<p>身近な人にお世話になっていることに気づき、それらの人々に感謝しようとする心情を育てる。</p>
<p>礼儀</p> <p>(8) 気持ちよい挨拶、言葉遣い、動作などに心がけて明るく接すること</p>	<p>「ノンタン おはよう」</p> <p>キヨノサチコ 作 偕成社</p>	<p>日々の生活場面における挨拶に目を向け、気持ちの良い所作が明るい気持ちにつながることに気づき、身近な人に明るく接しようとする心情を育てる。</p>
<p>友情、信頼</p> <p>(9) 友達と仲よくし、助け合うこと</p>	<p>「こんなときなんていう？ ～ともだちできたよ～」</p> <p>たかてらかよ 作 ひかりのくに</p>	<p>身近な友達と仲よくしたり、楽しくすごしたりしようとする心情や言葉をかけるときの道徳的判断力を育てる。</p>

C 主として集団や社会との関わりに関すること		
価値項目・内容	「本の題名」・作者・出版社名	ねらい
<p>規則の尊重</p> <p>(10) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること</p>	<p>「おやくそくえほん： はじめてのよのなか ルールブック」</p> <p>高濱正伸 作 日本図書センター (道徳 教科用図書)</p>	<p>世の中にはルールがあることや、それを守ることの大切さに気付き、約束やきまりを守ろうとする判断力を育てる。</p>
<p>公正、公平、社会主義</p> <p>(11) 自分の好き嫌いとらわれないで接すること</p>	<p>「わたしのせいじゃない -せきにんについて-」</p> <p>レイフ・クリスティアンソン 作 岩崎書店</p>	<p>行動が自分の利害にとらわれていないか考え、誰とでも同じように公正、公平に接しようとする心情を育てる。</p>
<p>勤労、公共の精神</p> <p>(12) 働くことのよさを知り、みんなのために働くこと</p>	<p>「みずやりとうばん」</p> <p>くすのきしげのり 作 廣済堂あかつき (道徳 教科用図書)</p>	<p>当番の仕事は責任をもってやりとげる ことの大切さに気付き、進んで仕事を しようとする態度を育てる。</p>
<p>家族愛、家庭生活の充実</p> <p>(13) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなど をして、家族の役に立つこと</p>	<p>「おうち」</p> <p>中川ひろたか 作 金の星社 (道徳 教科用図書)</p>	<p>自分も家族の一員であることに気付 き、家族や家庭生活を大切にしようとする 心情を育てる。</p>

<p>よりよい学校生活、集団生活の充実 (14) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること</p>	<p>「おもいやりの絵本」 WILL こども知育研究所 作 金の星社 (道徳 教科用図書)</p>	<p>学校生活の中で、自分も周りの人も気持ちよく過ごせる方法や行動について考え、進んで行動しようとする態度を育てる。</p>
<p>伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 (15) 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと</p>	<p>「チムドンドン おきなわ」 かいはたみち 作 絵本スタジオ アコークロー</p>	<p>沖縄の文化や生活の事を知ることで愛着を持ち、それらに親しもうとする心情を育てる。</p>
<p>国際理解、国際親善 (16) 他国の人々や文化に親しむこと</p>	<p>「せかいのひとびと」 ピーター・スピアー 作 評論社</p>	<p>世界には様々な人種や文化、生活様式があることを知り、他国の人々や文化に親しもうとする心情を育てる。</p>

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりにかんすること		
価値項目・内容	「本の題名」・作者・出版社名	ねらい
生命の尊さ (17) 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること	「うちにあかちゃんが うまれるの」 いとうえみこ 作 福音館書店	生きることや自分が生まれたことのすばらしさに気付き、自分のかけがえない生命を大切にしようとする心情を育てる。
自然愛護 (18) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること	「さくら」 長谷川摂子 作 福音館書店 (道徳 教科用図書)	動植物にも生命の営みがあることに気付き、自然や動植物を大事に守ったり育てたりしようとする心情を育てる。
感動、畏敬の念 (19) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと	「きせつのおでかけえほん」 ひがしなおこ 作 くもん出版	四季の自然の変化や美しさに気づき、美しいものや清らかなものに素直に感動できるような心情を育てる。

5. 道徳と関連する各教科等の内容例

学校教育全体を通じた道徳教育（道徳の指導）について、道徳と関連する各教科の内容と、それに主に関連する道徳の内容項目を例示します。**あくまで例示であり、これが全てではない点に留意してください。**

教科等	道徳と関連する各教科の内容例 ◇教科等全体に関わるもの	主に関連する道徳の内容項目
国語	<p>高等部</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高めること ◇思考力や想像力を伸ばすこと及び言語感覚を磨くこと ◇我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うこと 	<ul style="list-style-type: none"> ◆道徳の基盤 ◆道徳的心情、道徳的判断力【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】
	<p>小・中学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高めること ◇思考力や想像力を養うこと、言語感覚を豊かにすること <ul style="list-style-type: none"> ・物語の登場人物の心情を創造すること ・お礼状や挨拶状などを書くこと ・我が国の言語文化 ・自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文など 	<ul style="list-style-type: none"> ◆道徳の基盤 ◆道徳的心情、道徳的判断力【親切、思いやり】【礼儀】【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】【自然愛護】
公共・倫理	<ul style="list-style-type: none"> ◇人間としての在り方・生き方についての自覚を深める <ul style="list-style-type: none"> ・人間と社会の在り方についての見方・考え方 ・幸福・正義・公正 ◇公共的な空間における人間としての在り方生き方 <ul style="list-style-type: none"> ・個人や社会全体の幸福を重視する考え方 ◇現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 <ul style="list-style-type: none"> ・人間の心の在り方、人生観、倫理観、世界観 ・いかに生きればよいか 	<ul style="list-style-type: none"> ◆道徳教育の目標全体を踏まえた指導【公正、公平、社会正義】
地理歴史	<ul style="list-style-type: none"> ◇現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して、多面的・多角的に考察し理解を深めること ◇日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情 ◇他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 【我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度】 【国際理解、国際貢献】
社会	<p>小・中学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇地域、我が国の歴史・伝統・文化を通して社会生活を理解すること ◇多角的な思考を通して、地域社会に対する誇りと愛情、我が国の国土と歴史に対する愛情を涵養すること ◇国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者としての自覚 ◇自他の人格の尊重 社会的義務や責任、公正な判断 	<ul style="list-style-type: none"> 【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】 【国際理解、国際親善】 【公正、公平、社会正義】 【勤労、公共の精神】 【公正、公平、社会正義】 【規則の尊重】
数学	<p>高等部</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇数学を活用して事象を論理的に考察する力 ◇事象の本質や他の事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力 ◇数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度 ◇粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ◆道徳的判断力 ◆工夫して生活や学習をしようとする態度
	<p>小・中学部（算数数学）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察すること ◇算数・数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ◆道徳的な判断力 ◆工夫して生活や学習をしようとする態度

理科	<p>高等部</p> <p>◇地球の環境や生態系のバランスなどについて考えさせ、自然と人間との関わりについて認識させること</p> <p>◇見通しをもって観察、実験を行うこと</p> <p>◇科学的に探究する力を育て、科学的に探究しようとする態度を養うこと</p>	<p>◆生命を尊重し、自然科学の保全に寄与する態度の育成</p> <p>【生命の尊さ】</p> <p>【自然愛護】</p> <p>◆道徳的判断力</p> <p>【真理の探究】</p>
	<p>小中学部</p> <p>◇見通しをもって観察・実験を行うこと 問題解決の力を育てること</p> <p>・栽培や飼育などの体験活動、自然の事物・現象を調べる活動</p>	<p>◆道徳的判断力【真理の探究】</p> <p>【生命の尊さ】【自然愛護】</p>
保健体育	<p>高等部</p> <p>◇様々な運動の経験</p> <p>・粘り強くやり遂げる、ルールを守る、集団に参加し協力する、自己の責任を果たす、一人一人の違いを大切にすること</p> <p>◇健康・安全についての理解</p> <p>・健康の大切さを知り、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善する</p>	<p>【希望と勇気、克己と強い意志】</p> <p>【遵法精神、公德心】</p> <p>【公正、公平、社会正義】</p> <p>【相互理解、寛容】</p> <p>【節度、節制】</p>
	<p>小中学部</p> <p>◇自己の課題の解決に向けて運動すること</p> <p>・集団でのゲーム</p> <p>・健康・安全についての理解</p>	<p>【希望と勇気、努力と強い意志】</p> <p>【規則の尊重】【公正・公平】</p> <p>【礼儀】【友情・信頼】</p> <p>【節度、節制】</p>
芸術	<p>高等部</p> <p>◇芸術を愛好する心情</p> <p>◇感性を高める</p> <p>◇心豊かな生活や社会を創造していく態度</p> <p>◇豊かな情操</p>	<p>◆道徳性の基盤</p> <p>【感動、畏敬の念】</p>
	<p>小中学部（音楽）</p> <p>◇音楽を通して培われる豊かな情操</p> <p>◇音楽を愛好する心情 音楽に対する感性</p> <p>◇我が国の伝統音楽</p> <p>◇自然や四季の美しさを含んだ楽曲</p> <p>◇夢や希望をもって生きることの大切さなどを含んだ楽曲</p>	<p>◆道徳性の基盤</p> <p>【感動、畏敬の念】</p> <p>【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】</p> <p>【自然愛護】</p> <p>【希望と勇気、努力と強い意志】</p>
	<p>小中学部（図工美術）</p> <p>◇創造による豊かな情操</p> <p>◇つくりだす喜び</p>	<p>◆道徳性の基盤</p> <p>【感動、畏敬の念】</p>
外国語	<p>高等部</p> <p>◇外国語の背景にある文化に対する理解を深めること</p> <p>◇聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮すること</p>	<p>【国際理解、国際貢献】</p> <p>【相互理解、寛容】</p>
	<p>小中学部</p> <p>◇外国語の背景にある文化に対する理解</p> <p>◇他者に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとすること</p>	<p>【国際理解、国際親善】</p> <p>【相互理解、寛容】</p>
家庭	<p>高等部</p> <p>◇家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図る、それらに係る技能を身に付けること</p> <p>◇家族・家庭の意義や社会との関わりについて理解すること</p> <p>◇自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする主体的な態度</p>	<p>【節度、節制】</p> <p>【家族愛、家庭生活の充実】</p> <p>【よりよく生きる喜び】</p>

	<p>小中学部（技術家庭）</p> <p>◇日常生活に必要な基礎的な知識・技能を身に付け、生活をよりよくしようと工夫すること</p> <p>◇家庭生活を大切にすること</p>	<p>【節度、節制】</p> <p>【よりよく生きる喜び】</p> <p>【家族愛、家庭生活の充実】</p>
情報	<p>高等部</p> <p>◇情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報と情報技術を適切に活用する</p> <p>◇情報社会に主体的に参画する態度を養うこと</p>	<p>【社会参画、公共の精神】</p>
生活	<p>小学部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然に親しみ、生命を大切にするなど自然との関わりに関心をもつこと ・自分のよさや可能性に気付くなど自分自身について考えること ・生活上のきまり、言葉遣い、振る舞いなど生活上必要な習慣 	<p>【自然愛護】</p> <p>【個性の伸長】</p> <p>【節度、節制】</p> <p>【規則の尊重】【礼儀】</p>
生活※知	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣 ・安全や防災 ・日課・予定 ・きまりを守り楽しく遊ぶための工夫をして友達と仲良く遊ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの人への簡単な対応（挨拶など） ・集団の中で簡単な役割を果たすこと <ul style="list-style-type: none"> ・手伝いや仕事 ・学校のきまり、公共のマナー ・社会のしくみ、公共施設の使い方 ・身近な生命、自然 ・身近なものの仕組みと働き 	<p>【節度、節制】</p> <p>【生命の尊さ】</p> <p>【節度、節制】</p> <p>【規則の尊重】【友情、信頼】</p> <p>【親切、思いやり】</p> <p>【よりよい学校生活、集団生活の充実】</p> <p>【礼儀】</p> <p>【勤労、公共の精神】</p> <p>【家族愛、家庭生活の充実】</p> <p>【よりよい学校生活、集団生活の充実】</p> <p>【勤労】</p> <p>【規則の尊重】</p> <p>【公共の精神】</p> <p>【生命の尊さ】【自然愛護】</p> <p>【真理の探究】</p>
職業※知	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意義についての理解・意欲・関心 ・意欲や見通しをもって粘り強く作業や実習に取り組むこと ・職業生活に必要な態度 ・職業生活に必要な生活習慣 ・職業や進路 ・自分の成長や課題 	<p>【勤労】</p> <p>【努力と強い意志】</p> <p>【正直・誠実】【感謝】【礼儀】</p> <p>【節度、節制】</p> <p>【よりよく生きる喜び】</p> <p>【個性の伸長】</p>
家庭※知	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長 ・家族を大切にすること ・家族の一員として、自分の役割を考え、役割を果たそうとすること ・健康管理や余暇の過ごし方について理解し実践しようとする ・地域生活や地域の人との関わり ・食事の役割や規則正しい食事 ・整理整頓など快適な住まい ・節度ある買い物 ・物を大切に使うこと ・環境に配慮した生活 	<p>【個性の伸長】</p> <p>【家族愛、家庭生活の充実】</p> <p>【家族愛、家庭生活の充実】</p> <p>【節度、節制】</p> <p>【社会参画】【公共の精神】</p> <p>【節度、節制】</p> <p>【節度、節制】</p> <p>【節度、節制】</p> <p>【節度、節制】</p> <p>【自然愛護】</p>
総合	<p>小中学部</p> <p>◇探究課題の追究</p> <p>※探究課題として取り上げる内容に応じて道徳の内容項目との関連を図る</p>	<p>自己の生き方・在り方の理解</p> <p>【努力と強い意志】【真理の探究】</p> <p>【友情、信頼】【相互理解、寛容】</p>
特別活動	<p>小中学部</p> <p>【学級活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級や学校の生活上の諸課題を見だし、協力して解決すること ・基本的生活習慣の形成 ・よりよい人間関係の形成 	<p>【善悪の判断、自律、自由と責任】</p> <p>【よりよい学校生活、集団生活の充実】</p> <p>【節度、節制】</p> <p>【親切、思いやり】【感謝】</p>

<p>特別活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 健康で安全な生活態度の形成 食育を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度を形成すること 社会参加意識の醸成 働くことの意義 主体的な学習態度の形成 自らの生活を振り返り、目標を定め、粘り強く取り組むこと 【児童生徒会活動】 学校におけるよりよい生活を築くために、諸課題を見だし、協力して解決すること 異年齢による、よりよい人間関係の形成 <p>・よりよい学校生活づくりへの参画</p> <p>【学校行事】</p> <p>※行事の種類・特性によって含まれる道徳的価値が異なるため割愛</p>	<p>【友情、信頼】【相互理解、寛容】</p> <p>【節度、節制】</p> <p>【節度、節制】</p> <p>【希望と勇氣】【よりよく生きる喜び】</p> <p>【公共の福祉】【社会参画】</p> <p>【勤労】</p> <p>【自主、自律、自由と責任】</p> <p>【希望と勇氣、努力と強い意志】</p> <p>【善悪の判断、自律、自由と責任】</p> <p>【よりよい学校生活、集団生活の充実】</p> <p>【親切、思いやり】【感謝】</p> <p>【友情、信頼】【相互理解、寛容】</p> <p>【よりよい学校生活、集団生活の充実】</p>
<p>自立活動</p>	<p>小中学部</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康状態の維持や生活習慣の形成 病気・障害の自己理解 <ul style="list-style-type: none"> 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 自己理解と行動の調整 人間関係の形成 集団への参加 <p>※詳細は「道徳の内容項目と自立活動の学習内容との関連付け」参照</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>【節度、節制】</p> <p>【個性の伸長】</p> <p>【希望と勇氣、努力と強い意志】</p> <p>【よりよく生きる喜び】</p> <p>【善悪の判断、自律、自由と責任】</p> <p>◆主として人との関わりに関する事</p> <p>◆主として集団や社会との関わりに関する事</p>

※知・・・知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科

6. 道徳の内容項目と自立活動の学習内容との関連性(例)

1 健康の保持

自立活動の学習内容	道徳の内容項目	
<p>覚醒と睡眠</p> <p>◇学校でできるだけ起きています。</p> <p>◇生活リズムを整え、起きている状態を徐々に長く保つ。</p> <p>◇周りに関心を示し、学習に参加する。</p>	<p>【節度・節制】</p> <p>【個性の伸長】</p> <p>【希望と勇気、努力と強い意思】</p>	
<p>健康状態の把握</p> <p>◇毎日自分の体調を知る。</p>		
<p>呼吸・廃痰</p> <p>◇楽な呼吸ができる姿勢を知り、安定した呼吸動作を維持する。</p> <p>◇自分の力で痰を出す。</p>		
<p>清潔・衛生</p> <p>◇清潔・衛生を保つ。</p>	<p>【節度・節制】</p> <p>【勤労、公共の精神】</p>	
<p>病気の状態の理解と改善</p> <p>◇自分の病気の状態や体質、発作の状況を正しく理解する。</p> <p>◇病気の対処の仕方について知る。</p>	<p>【節度・節制】</p> <p>【個性の伸長】</p> <p>【勤労、公共の精神】</p>	
<p>病気の進行防止</p> <p>◇病気の進行防止に必要な生活様式について理解を深める。</p> <p>◇病気の進行防止に必要な生活習慣を確立し、自己管理をする。</p>	<p>【節度・節制】</p> <p>【個性の伸長】</p> <p>【希望と勇気、努力と強い意思】</p> <p>【勤労、公共の精神】</p>	
<p>服薬・薬の管理</p> <p>◇薬を正しく服用する。 ◇薬を正しく管理する。</p>		
<p>症状の進行防止</p> <p>◇変形、拘縮を防ぐ。 ◇側わんを防ぐ。</p>		
<p>病気の予防</p> <p>◇自分の健康状態を伝える。 ◇感染症の予防に努める。</p> <p>◇自分の健康状態に応じて生活の自己管理をする。</p>		
<p>体力の維持</p> <p>◇適切、適度な運動をする。</p>		
<p>食の管理</p> <p>◇適切な食事の内容や量、規則的な食生活を理解する。</p> <p>◇バランスのとれた食事をする。</p>		
<p>生活環境の管理</p> <p>◇安全な生活環境について理解する。</p>		
<p>障害の特性の理解</p> <p>◇学習や生活において、困難なことに気付く。</p> <p>◇自分の障害の特性と、学習や生活における困難なこととの関連について理解する。</p>		
		<p>【節度・節制】</p> <p>【個性の伸長】</p> <p>【希望と勇気、努力と強い意思】</p> <p>【勤労、公共の精神】</p>

<p>環境の調整</p> <p>◇自分で環境を調整して、学習や生活をしやすいとする。</p> <p>◇他者に依頼して環境を調整してもらい、学習や生活をしやすいとする。</p>	<p>【節度・節制】</p> <p>【個性の伸長】</p> <p>【希望と勇気、努力と強い意思】</p> <p>【勤労、公共の精神】</p>
---	--

2 心理的な安定

自立活動の学習内容	道徳の内容項目
<p>情緒のめばえ</p> <p>◇快の反応を示す。 ◇喜怒哀楽の感情を示す。</p>	<p>【親切、思いやり】</p> <p>【感謝】【礼儀】</p> <p>【友情、信頼】</p>
<p>気持ちの安定</p> <p>◇落ち着ける何らかの方法を知る。</p> <p>◇常同行動をなくしても安定した気持ちでいる。</p> <p>◇自傷行為、他傷行為を軽減する。</p> <p>◇特定の物への固執を軽減する。</p>	<p>【正直、誠実】</p> <p>【節度・節制】</p>
<p>安心して活動に取り組む</p> <p>◇いろいろな活動に取り組む。</p>	
<p>改善・克服への取り組み</p> <p>◇自分の障害の状態について理解し受容する。</p> <p>◇改善・克服に向けた意欲を高める。</p>	<p>【個性の伸長】</p> <p>【希望と勇気、努力と強い意思】</p> <p>【生命の尊さ】</p> <p>【より良く生きる喜び】</p>

3 人間関係の形成

自立活動の学習内容	道徳の内容項目
<p>人への関心</p> <p>◇特定の教師（家族）の関わりに気付く。</p> <p>◇特定の教師（家族）との関わりを楽しむ。</p> <p>◇複数の教師（家族）との関わりを増やす。</p> <p>◇友達との関わりを増やす。</p>	<p>【親切、思いやり】</p> <p>【感謝】【礼儀】</p> <p>【友情、信頼】</p> <p>【相互理解、寛容】</p> <p>【よりよい学校生活、集団生活の充実】</p> <p>【家族愛、家庭生活の充実】</p>
<p>注意の共有</p> <p>◇相手に注意を向けて関わる。</p> <p>◇相手が指さすものに注意を向ける。</p> <p>◇相手の働きかけに気付き、応じる。</p>	<p>【親切、思いやり】</p> <p>【感謝】【礼儀】</p> <p>【友情、信頼】</p>
<p>感情の理解</p> <p>◇自分の感情に気付く。 ◇自分の感情を知る。</p> <p>◇他者に感情があることに気付く。</p> <p>◇自分と他者の気持ちの違いに気付く。</p> <p>◇気持ちには程度があることを知る。</p>	<p>【個性の伸長】</p> <p>【親切、思いやり】</p> <p>【友情、信頼】</p> <p>【相互理解、寛容】</p>

感情の読み取り ◇自分の表情とそのときの感情を結び付けさせる。 ◇他者の表情やしぐさなどから感情を読み取る。	【親切、思いやり】 【感謝】【礼儀】 【友情、信頼】 【相互理解、寛容】
自己意識 ◇好きな活動を通して成功経験を積み重ね、できることを実感する。 ◇未経験なことや苦手なことに取り組み、自分の得意なこと不得意なことに気付く。 ◇自分のことを理解する。	【正直、誠実】 【個性の伸長】 【希望と勇気、努力と強い意思】
行動調整 ◇自分がどのような行動をしているのかを知る。 ◇自分の行動で見直すべき点について知る。 ◇どのような行動が望ましいかを知る。	【善悪の判断、自立、自由と責任】 【節度、節制】 【規律の尊重】 【公正、公平、社会主義】 【勤労、公共の精神】 【よりよい学校生活、集団生活の充実】
集団活動への参加 ◇特定の教師（家族）と集団での活動に参加する。 ◇集団の中で友達と活動する。	【規律の尊重】 【勤労、公共の精神】 【よりよい学校生活、集団生活の充実】
集団に参加するための手順やきまり ◇集団で活動するときの手順やきまりを知る。	【規律の尊重】 【勤労、公共の精神】 【よりよい学校生活、集団生活の充実】

4 環境の把握

自立活動の学習内容	道徳の内容項目
視覚 ◇いろいろな光、人、物に気付く。	【生命の尊さ】 【自然愛護】 【感動、畏敬の念】
聴覚 ◇いろいろな音に気付く。	
触覚 ◇いろいろな物に触れながら活動する。	
得意な認知の方法の活用 ◇視覚的な手がかりをもとに物事を理解する。 ◇聴覚的な手がかりをもとに物事を理解する。	
視覚の補助・代行手段 ◇聴覚や触覚等で周りの様子を把握する。	
聴覚の補助・代行手段 ◇補聴器等を活用し、音や言葉を聞き取る。	

5 身体の動き ※自立活動の他の区分と関連付ける。

6 コミュニケーション

自立活動の学習内容	道徳の内容項目
表情などの表出 ◇人との関わりの中で表情などを表す。	【親切、思いやり】 【感謝】【礼儀】 【友情、信頼】
要求 ◇要求を実現してくれる特定の人存在に気付く。 ◇要求を実現してくれる人へ注意を向け、働きかける。	
身振り、手振り ◇身振りや手ぶりを使ってやり取りをする。 ◇身振りや手ぶりで要求を伝える。 ◇具体物を手渡す、手や腕を引く等の手段により要求を伝える。	
指さし ◇教師が指さした物を見る。◇いろいろな意味の指さしをする。	
相互関係 ◇教師とやりとりをする。	
言葉の理解 ◇自分の名前が分かる。◇身近な人の名前が分かる。 ◇要求の言葉が分かる。	
言葉の表出 ◇簡単な言葉を言う。◇言葉で要求を伝える。 ◇身近な物や人の名前を言う。	
具体物や絵カードの活用 ◇具体物を活用し、自分の意思を伝える。 ◇写真や絵カードを活用し、自分の意思を伝える。	
状況に応じたコミュニケーション ◇相手の話を聞きながら話す。◇相手の気持ちを考えて話す。 ◇場や相手に応じて、ふさわしい話し方をする。	【親切、思いやり】 【感謝】【礼儀】 【友情、信頼】 【相互理解、寛容】

参考文献：(2019)「自立活動学習内容要素表」長崎自立活動研究会

日付

【 主題名 】

【 内容項目 】

【 目標 】

自分におきかえて考える	友達の見意見を聞いて考える	これからの自分を考える
	・ 友達の意見を聞いて、どう感じたかな？	・ これからの自分は、どうしていきたいかな？ どう過ごしていこうかな？

【 自己評価 】

- ・ 自分におきかえたり、自分の体験をふまえたりしながら、考えることができましたか。
- ・ 友達の意見を聞いて、自分の考えを深めることができましたか。
- ・ これから自分がどうしていきたいか、考えることができましたか。

できた					できなかった
できた					できなかった
できた					できなかった

道徳科学びの記録

名前 ()

() 学期 個別の指導計画の目標	
----------------------	--

学びを見取る視点
【視点①】 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか 【視点②】 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

日付	学習した時間 ○をつける	主題・活動 【学んでほしい道徳的価値】	学びの記録
記入例	道徳科の授業 日生 生単 遊び 作業 他	私にできる貢献って何だろう？【奉仕することの尊さを理解し、公共のために役立つとうとする心情を育てる（公共の精神）】	仕事ができなくなり周りの人に手伝ってもらった車椅子の看護師について、他の人に手伝ってもらうことに対して自分が感じることを自分の経験を踏まえながら語っていた。また、自分にできることはないか考えるという他の人の意見を聞き、自分なりの貢献の仕方を考えていた。
/	道徳科の授業 日生 生単 遊び 作業 他		
/	道徳科の授業 日生 生単 遊び 作業 他		
/	道徳科の授業 日生 生単 遊び 作業 他		
/	道徳科の授業 日生 生単 遊び 作業 他		
/	道徳科の授業 日生 生単 遊び 作業 他		

道徳科学びの記録

名前 ()

() 学期 個別の指導計画の目標	
----------------------	--

▲コピー&ペースト

学びを見取る視点
道徳的価値に関して（今までや普段と違い/いつもよりも） 気付いている様子があるか・感じ取っている様子があるか・葛藤している様子があるか ※表情・発声・仕草などから情動の表出を見取る
見取りのポイント
合わせた指導で道徳科を教える場合、活動が道徳的（協力する活動、皆での遊び、プレゼント作り等）であったとしても子どもが道徳的価値を学んでいるとは限りません。道徳的価値に関して、今までや普段と違う新たな気付き・感じ・葛藤」があることが「道徳科の学び」です。合わせた指導で指導する場合は「気付き・感じ・葛藤」する場面をしっかりと設け、子どもの心を丹念に読み取るよう努めましょう。

▼道徳科の時間・合わせた指導以外のものは書かない

日付	学習した時間 ○をつける	主題・活動 【学んでほしい道徳的価値】	学びの記録
記入例	道徳科の授業 日生 生単 遊び	音で遊ぼう 【友達と関わる楽しさを感じ取り、自ら関わろうとする気持ちをもつ（友情・信頼）】	自分が鳴らす音にクラスの友達が興味を持って聞いていることに気付くと、さらに友達の興味をひこうと何度も音を出して友達の様子を伺っていた。友達が生徒の方をチラッと見るたびに、嬉しそうに笑っていた。
/	道徳科の授業 日生 生単 遊び 作業 他		
/	道徳科の授業 日生 生単 遊び 作業 他		
/	道徳科の授業 日生 生単 遊び 作業 他		
/	道徳科の授業 日生 生単 遊び 作業 他		
/	道徳科の授業 日生 生単 遊び 作業 他		

中学部（ 道徳科 ）年間指導計画 **記入例** 知的障害のある生徒

学年・教育課程(課程)		2年・Ⅱ課程B ※知的障害のある生徒	作成者		総授業時数	36
年間目標		人と関わりながら生活するために必要な道徳的価値の存在に気付き、よりよく人と関わるための道徳的価値の存在に気付き、よりよく人と関わるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。				
学期	時数 配当	目標	主題名【内容項目】	教材・活動内容		
1学期	13	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶が明るい気持ちにつながることに気付き、身近な人に明るく接しようとする心情を育む。 ○家族に大切にされていることに気付き、家族への感謝と親しみの気持ちを育む。 ○よくない行動があることに気付き、よいことを進んで行おうとする態度を育む。 ○思い通りにならないことがあることに気付き、時には我慢しようとする態度を育む。 ○いつもと変わらない朝を迎えられることに喜びを感じ、自分の生命と健康を大切にしようとする心情を育む。 ○身近な生き物に気付き、親しみの気持ちを育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつの気持ちよさ【礼儀】 ○ぼく、わたしの家族【家族愛、家庭生活の充実】 ○よくないことはしない【善悪の判断、自律、自由と責任】 ○わがままをおさえて【節度、節制】 ○あたりまえがすてき【生命の尊さ】 ○みんな、生きている【自然愛護】 	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなで挨拶リレーをしよう 輪になり挨拶のリレーをする (教師も加わって行う) ○家族からのビデオメッセージなどを見る (母の日、父の日と関連付ける) ○学校生活の場面のイラストを見て、よくないことをしているものを見つける。 ○みんなで iPad の動画を見よう 人数分ない iPad を用意し、順番に視聴する。待っている人は我慢する。 ○戦争のビデオや資料・展示品・写真等を見て、平和について考える。 (慰霊の日の平和学習と関連付ける) ○生き物を育てよう(教室で昆虫などを飼育する) 		
2学期	15	<ul style="list-style-type: none"> ○自分がしたことがみんなの役に立つ嬉しさを感じ、進んで仕事をしようとする態度を養う。 ○相手にも気持ちがあること、自分の行動が相手を嬉しくさせたり悲しくさせたりすることに気付き、相手の気持ちを意識しようとする態度を育む。 ○皆と一緒に生活するためにはきまりがあることに気付き、きまりを守ろうとする態度を育む。 ○身近な人と関わり合うことの楽しさや一緒に過ごす喜びを感じ、自ら関わろうとする気持ちを育む。 ○外国の人とよりよい関係を築こうとすることの大切さに気付き、外国の人や文化に親しもうとする心情を育む。 ○身近な人にお世話になっていることに気付き、感謝する気持ちを育む。 ○みんなで一緒に活動すると楽しいことに気付き、進んで皆と一緒に楽しもうとする態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○だいたいな仕事【勤労、公共の精神】 ○あいての気持ち【親切、思いやり】 ○きまりを守って遊ぼう【規則の尊重】 ○みんなでやろう【友情、信頼】 ○ことばが通じなくても【国際理解、国際親善】 ○ありがとうの気持ち【感謝】 ○たのしいクリスマス会【よりよい学校生活、集団生活の充実】 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラスの係活動に取り組んでいる生徒一人一人を表彰する。係仕事の様子もビデオで視聴する。 ○先生と遊ぼう 教師との遊びの中で、教師が泣いたり喜んだりする姿を演じ、相手の気持ちに触れさせる。 ○クラスのみんなど遊ぼう きまりのあるゲームを行う。教師がきまりを守らない役を演じ皆で考える。 ○クラスのみんなど遊ぼう ○運動会に向けて ○ALT を招いて一緒にゲームを楽しむ。 言葉が通じなくても楽しみを共有できることを実感させる。 ○学校でお世話になっている人を思い浮かべ、感謝の気持ちを伝えに行く。 (勤労感謝の日と関連付ける) ○クリスマス会 歌を歌ったり踊ったりしながら皆で活動する楽しさを実感する。 		
3学期	8	<ul style="list-style-type: none"> ○優しくすることの大切さに気付き、親切な行為をしていこうとする態度を養う。 ○自分の成長に喜びを感じ、大切にしていこうとする心情を育む ○我が国や郷土の伝統や文化に気付き、愛着を深め、それらに親しもうとする心情を育む。 ○美しいものに触れる体験を通して、すがすがしい心情を育む。 ○自分がやらなければならないことにしっかり取り組もうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○あたたかいこころ【親切、思いやり】 ○大きくなってね 大きくなったよ【生命の尊さ】 ○沖縄の文化に触れて【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】 ○さわやかなきもち【感動、畏敬の念】 ○一つずつやってみよう【希望と勇気、努力と強い意志】 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が困っている場面を演じ、助けてくれた生徒に感謝を伝えることで親切な行為の価値に気付かせる。 ○自分の成長の写真を見ながら、大きくなったことを実感できるようにする。 ○組踊りを鑑賞しよう・体験しよう (組踊りワークショップと関連付ける) ○美しい音楽を聴く。 (音楽鑑賞会と関連付ける) ○1年間がんばったこと、できるようになったことを振り返りながら、もっとできるようになりたいことを考える。 		

小学部（ 道徳科 ）年間指導計画 **記入例** 重度・重複障害のある児童

学年・教育課程(課程)		3年・Ⅱ課程C	作成者		総授業時数	36
年間目標		人との関わりの中で、道徳的な価値に気付いたり、感じたりして、よりよく人と関わるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。				
学期	時数 配当	目標	主題名【内容項目】	教材・活動内容		
1学期	13	①身近な大人の存在に気付き、親しみの気持ちを育む。 道徳的価値+育みたい道徳性の構成で書く ②身近な大人と関わる心地よさを感じ、安心感をもてるようにする。 ③家族との関わりに心地よさや喜びを感じ、安心感をもてるようにする。 ④身近な大人と関わる心地よさを感じ、安心感をもてるようにする。 ⑤伸び伸びと体を動かす楽しさや心地よさを感じ、進んで体を動かそうとする意欲を育む。	①新しい先生【親切、思いやり】 ②先生と遊ぼう【友情、信頼】 ③お母さん、お父さんありがとう【家族愛、家庭生活の充実】 ④⑤体を動かして遊ぼう【友情、信頼】	①新しい担任と一緒に触れ合い遊びをする。 ・いないいないばあ遊び ・スキンシップ (遊びの指導) ②担任と一緒に触れ合い遊びをする。 ・リラックスできる遊び ・マッサージ ・先生どこいった？(遊びの指導) ③母の日、父の日に向けて、両親(又は家族)からのビデオメッセージを視聴する (生活単元学習) ④スリルのある遊びをしながら、教師に身を任せることで教師への信頼感・安心感を育てる。 ・滑り台、プール、シーツブランコ ⑤子どもが伸び伸びと体を動かせる遊び プール、トランポリンなど (遊びの指導)		
2学期	15	①他の児童の存在に興味や関心をもてるようにする。 ②身近な大人に、自分が受け入れられていることを感じ、進んで関わろうとする意欲をもてるようにする。 ③自分から働きかけることの大切さに気付き、自ら働きかけようとする態度を育む。 ④他の児童や教師の感情に気付いたり、感じ取ったりして、同じ気持ちになれるようにする。 ⑤美しい光を見て、心を動かすことができるようにする。	①友達と遊ぼう【よりよい学校生活、集団生活の充実】 ②のびのび踊ろう【個性の伸長】 ③怪獣をやっつける【希望と勇気、努力と強い意志】 ④相手の気持ち【親切、思いやり】 ⑤すばらしいもの、美しいもの【感動、畏敬の念】	①合同遊び ・みんなでトランポリン ・ボール遊び (遊びの指導) ②運動会に向けて (生活単元学習) ③運動会に向けて(生活単元学習) ・怪獣が倒れるまでスイッチを押し続ける ④ハロウィン(生活単元学習) ・おばけの来襲に教師がびっくりしたり、怖がったりする演技を見せ、同じような気持ち・気分になれるようにする ④クリスマス会(生活単元学習) ・楽しい雰囲気や笑い声の中で、楽しい気分になれるようにする。 ⑤クリスマスイルミネーション 教室を暗くして天井に投影する		
3学期	8	①すばらしい音楽や美しい映像などを見たり、聴いたりして心を動かすことができるようにする。 ②身近な大人を信頼し、安心感をもてるようにする。 ③身近な大人の態度や表情から、してよいこと・よくないことがあることに気付き、大人がよくないと言うことはしないようにする態度を育む。	①すばらしいもの、美しいもの【感動、畏敬の念】 ②先生、助けて【友情、信頼】 ③自由に遊ぼう【善悪の判断、自律、自由と責任】	①音楽鑑賞(生活単元学習) 美しい映像を天井に投影して鑑賞する ②節分の鬼の襲来(生活単元学習) ③自由遊び 昼間で自由に遊べる状態にし、やっではいけないこと(物を投げるなど)が見られた時は、教師が注意する。 (遊びの指導)		

【道徳】 個別の指導計画 記入例 (軽度の知的障害を併せ有する児童生徒版)

個別の教育支援計画の短期目標(1年間)	健康/医療	暑いときには自分で上着をとったり、「暑いです」と訴えたりすることができる
	家庭/生活	使った物を片付けることができる
	余暇/地域生活	必ずしも自分の思い通りにならないことでも一緒に活動を楽しむことができる
	就労/進路	きまりを守ろうとすることができる

個別の教科の年間目標	<p>小学校1・2学年の内容項目をもとに、幼稚園教育要領の内容を取り入れて学習することが可能な生徒である。</p> <p>①友達(仲間)の良さを実感し、仲良くしたいという心情を育む。</p> <p>②人としてしてはならないことについて、その理由や意味を理解し、自分で判断してよい行いをしようという気持ちを養う。</p> <p>③自分の良さに気づき、苦手なことにも挑戦してみようという気持ちを養う。114字/300字</p>
------------	---

	1学期	2学期	3学期の目標内容でだて及び年間評価
目標	<p>①クラスの友達に受け入れられる嬉しさを実感し、仲良くしたいという気持ちをもつ。</p> <p>②ルールの意義に気づき、ルールを守ろうとする態度を育む。</p> <p>③親切な行為が、感謝されることを実感し、人の役に立とうとする気持ちをもつ。</p> <p>104字/250字</p>	<p>①友達と協力することの良さについて考え、協力しようという気持ちをもつ。</p> <p>②思い通りにならないことでも折り合いをつけることの大切さに気づき、自分の行動を振り返ることができる。</p> <p>③苦手なことに対する向き合い方について考え、自分なりの方法で挑戦してみようという意欲をもつ。</p> <p>131字/250字</p>	<p>【3学期目標】</p> <p>①友達と交わす冗談が時に相手を傷つけている場合があることに気づき、よりよい友達関係を築くために言葉遣いに気を付けようとする気持ちをもつ。</p> <p>②いじめやからかいについて考え、いじめを許さない心を育む。</p> <p>③自分の良さに気づき、自分を活かそうとする意欲をもつ。</p> <p>124字/250字</p>
内容	<p>「友達を知ろう」学級レク 「友達の良いところは？」 「遠足にルールは必要？」 「学級のルールはなぜ必要？」 「注意されなければ大丈夫？」 「親切は誰のため？」</p> <p>74字/250字</p>	<p>運動会や特体連、就業体験等と関連させて「運動会の玉運び」「短距離走で負けたら？」「私の失敗経験」「自分の得意なことを活かしたAさん、苦手なことでもやりぬいたBさん」「実習で評価されたこと」</p> <p>95字/250字</p>	<p>【3学期内容】 「言われて嬉しい冗談、嫌な冗談」「本当の友達とは」「いのちの大切さ」「これっていじめ？」「いじめをみつけたら」「自分の良さは何だろう」</p> <p>67字/250字</p>
てだて	<p>「道徳科」の時間で取り扱う。 ・実際の学校生活や行事等で体験したことを題材にする。 ・行事等の事前学習・事後学習と関連づけて行う。 ・事前に生徒自身がそのテーマについてどう感じているのか、捉えているのかを把握しておき、授業の発問に活かす。 ・教師が教え込むのではなく、生徒達の感じ方・捉え方を拾いながら生徒達が考えられるよう支援する。</p> <p>170字/400字</p>	<p>「道徳科」の時間で取り扱う。 ・実際の学校生活や行事等で体験したこと、体験することを題材にする。その時のビデオや写真を提示して思い出せるようにする。 ・生徒が感じたことをうまく言語化したり意思表示したりできるように、選択肢や記号、イラストを用いる。 ・生徒の伝えたいことをできるだけ正確に聞き出せるよう、必要に応じて教師が言葉を言い換えたり整理したりしながら言語化できるよう支援する。(代弁的支援)</p> <p>196字/400字</p>	<p>【3学期でだて】 「道徳科」の時間で取り扱う。 ・実際の学校生活や行事等で体験したことを題材にする。 ・生徒に考えさせたい・気付かせたい場面について教師がロールプレイで再現したものを見せることで、考えを促す。 ・ビデオ教材を用いて両方の立場から気持ちを捉えられるようにする。 ・絵本の一部をスライドにして教材化する。</p> <p>164字/400字</p>
学期評価及び年間評価	<p>【1学期評価】</p> <p>①「友達の良いところ探し」では、クラスの友達に生徒の良いところだと思ふことをたくさん挙げてもらうと、嬉しそうなる表情になり、Aさん(クラスの生徒)にお礼を言っていました。</p> <p>②ロールプレイでは、教師が遠足中に勝手にどこかへ行ってしまう生徒役を演じて、その間レクが中断してしまう体験をすると、「勝手に一人で行くのはよくない」と発表していました。</p> <p>③省略</p> <p>171字/400字</p>	<p>【2学期評価】</p> <p>①省略</p> <p>②リレーで負けたことが悔しくて暴言を吐いてしまったAさんという架空の話聞き、負けた時の悔しさには共感しつつ、「暴言を言われたBさんも負けて悔しかったんだよ」と、Bさんの気持ちを代弁していました。</p> <p>③自分の苦手だった水泳に取り組んだCさん(架空)のエピソードについて考え、自分のことを振り返りながら感じたこと・考えたことを発表していました。</p> <p>172字/400字</p>	<p>【年間評価】</p> <p>・自分と友達との実際の関係について具体的なエピソードを振り返りながら考えていました。友達と関わった時の自分の気持ちだけでなく、相手の友達がどんな気持ちになるのかについて言及するようになりました。</p> <p>・自分と違う立場の捉え方や意見に触れて、考え直したり、考えを深めたりする場面が見られるようになりました。</p> <p>・苦手なことに挑戦する他の生徒の様子を見たり、得意なことを活かしている生徒の話の聞いたりしながら、自分が苦手なことにとどのように向き合ってきたのかを振り返り、前向きに考えようとしていました。</p> <p>243字/400字</p>
引継事項	<p>感じたこと、考えたことをうまく言葉にするのが苦手なので、言語化を支援する必要があります。</p> <p>42字/200字</p>	<p>友達の発言を間違った考えとして正そうとすることが多いので、発表したり話し合ったりする時のルールを確認する。</p> <p>53字/200字</p>	<p>相手の気持ちを推し量ることは苦手である。自立活動の指導とも関連させながら、相手はどう感じるかについて注意が向くよう支援する必要があります。</p> <p>55字/200字</p>

【道徳】個別の指導計画 記入例（中度の知的障害のある児童生徒版）

個別の教育支援計画の短期目標（1年間）	健康／医療	呼吸の状態を安定させ、体調を整えて毎日を過ごすことができる
	家庭／生活	食べる量を増やす
	余暇／地域生活	耳から入る情報（音楽やCMのメロディなど）で興味関心のあるものを増やす
	就労／進路	担任以外の関わりになれ、落ち着いて過ごすことができる

個別の教科の年間目標	中学校の目標のもと、小学校1・2学年の内容項目をもとに、幼稚部教育要領（幼稚園教育要領）の内容を取り入れて学習することが可能な生徒である。 道徳的諸価値について、新たに気付いたり実感したりする学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 125字／300字
------------	--

	1学期	2学期	3学期の目標内容でだて及び年間評価
目標	①新しいクラスの友達たちに受け入れられる嬉しさを実感し、クラスの友達に親しんで楽しく過ごそうとする気持ちを育む。 ②整理整頓することの意味に気づき、進んで片付けようとする態度を育む。 ③省略 93字/250字	①公平にすることの大切さに気づき、公平・不公平を判断する視点を養う。 ②家族や日頃お世話になっている人の親切や温かい気持ちに気づき、感謝する気持ちをもつ。 ③省略 79字/250字	【3学期目標】 ①身近な動物に親しみ、優しい心で接しようとする気持ちを養う。 ②思い通りにならないことでも折り合いをつけることの大切さに気づき、我慢したり譲ったりしようとする気持ちを育む。 ③省略 88字/250字
内容	「友達と楽しもう」【友情・信頼】「学校生活のルール」【規則の尊重】「身の回りを整えよう」【節度、節制】 51字/250字	運動会や特体連、就業体験等と関連させて「公平に走ろう」【公正、公平、社会正義】「日頃お世話になっている人に感謝の気持ちを伝えよう」【感謝】 69字/250字	【3学期内容】 「ハムスターを育てよう」【生命の尊さ】「クラスでゲームをしよう」【規則の尊重】【善悪の判断、自律、自由と責任】 55字/250字
だて	「道徳科」の時間で取り扱う。 ・実際の学校生活や行事等で体験したこと、体験することを題材にする。 ・行事等の事前学習・事後学習と関連づけて行う。 ・当該目標に関する生徒の日頃の行動傾向等を把握し、授業の題材に生かす。 ・教師が教え込むのではなく、生徒達の感じ方・捉え方を拾いながら生徒達が気付けるよう支援する。 151字/400字	「道徳科」の時間で取り扱う。 ・実際の学校生活や行事等で体験したこと、体験することを題材にする。その時のビデオや写真を提示して思い出せるようにする。 ・生徒が感じたことを言語化したり意思表示したりできるように、選択肢や記号、イラストを用いる。 ・生徒の伝えたいことをできるだけ正確に聞き出せるよう、必要に応じて教師が言葉を言い換えたり整理したりして支援する。 (代弁的支援) 183字/400字	【3学期でだて】 「道徳科」の時間で取り扱う。 ・実際の学校生活や行事等で体験したこと、体験することを題材にする。 ・生徒に考えさせたい・気付かせたい場面について簡単な役割演技をして気づきを促す。 ・ビデオ教材を用いる。 ・絵本の一部をスライドにして教材化する。 128字/400字
学期評価及び年間評価	【1学期評価】 ①レクでは、大好きなグループの曲に合わせて皆の前でダンスしました。クラスの友達が拍手したり、一緒に前に出て踊り出したりすると嬉しそうにジャンプしていました。 ②生徒達の荷物や道具を全て机の上に置くと、「違うよ」と指を指して訴えました。「こっちなか？」と別の生徒の机に置くと、片付けの場所を示した教室の貼り紙を指さして、正しい場所に片付けるよう指摘しました。 ③省略 180字/400字	【2学期評価】 ①教師と競争を行いながら公平について学びました。教師がゴール手前からスタートしていることに気づき、教師の袖を引っ張って横並びの位置からスタートするよう促していました。また、輪っか引っ張りゲームでは、Aチームが1人なのに対し、Bチームが5人もいることに気づき、同じ人数になるよう数えていました。 ②日頃お世話になっている図書室の司書やバスの運転手などからのビデオメッセージを見ました。日頃の何気ない関わりの中でも思いやりをもって気にかけてもらっていることに気づき、嬉しそうにしていました。 242字/400字	【年間評価】 ・学校生活の具体的な場面を再体験する活動の中で、その意味や価値について新たに気付いたり、改めて考えたりして、そのことを簡単な言葉やしぐさで伝えようとする様子が見られました。 ・思い通りにいかないことでも我慢したり、自分なりに納得しようとしていたり、葛藤しながら受け入れようとする様子が見られました。 146字/400字
引継事項	感じたこと、考えたことをうまく言葉にするのが苦手なので、意思をできるだけ聞き出す支援が必要である。 49字/200字	教材で用いるビデオやイラストの構成をできるだけシンプルにすると状況を捉えやすいようである。言葉の説明だけでなく視覚化が効果的であった。 67字/200字	相手の気持ちを推し量ることは苦手である。自立活動の指導とも関連させながら、相手がどう感じるかについて注意が向くよう支援する必要がある。 55字/200字

【道徳科】：個別の指導計画「作成の観点」の説明

個別の教育支援計画の短期目標(1年間)	①他の教科と異なり3観点では記入しない。 ②道徳科の目標を記入する。(「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」の目標と混同しないこと) 準ずる：特別支援学校学習指導要領と児童生徒の学部に対応する学校(小中学校等)の目標に基づき、児童生徒に応じた個別の目標を作成する。 ※原則として全ての内容項目を指導するため、1～2の内容項目のみを抽出して目標に据えることは考えにくい
個別の教科の年間目標 300字以内	小中知的：特別支援学校学習指導要領と児童生徒の学部に対応する学校(小中学校等)の目標に基づき、児童生徒に応じた個別の目標を作成する。児童生徒の実態等から特に必要な場合は、目標の一部又は全部を小学校学習指導要領の目標に替えたり、幼稚園教育要領(幼稚園教育要領)の各領域のねらいの一部を取り入れたりして設定することができる。 高知的：人間としての在り方・生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを踏まえる。小学部及び中学部における道徳科の目標及び内容を基盤とし、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めるための目標にする。

	1 学期	2 学期	3 学期の目標内容でたて及び年間評価
目標 250字以内	①学習指導要領の内容項目について教えるが、学期で1つの内容項目だけを扱うことは考えにくいので、年間の目標に沿って複数の内容項目を関連付けて目標を設定する。ただし、児童生徒の実態(重度重複障害等)によっては、1～2の内容項目について学期を通して継続して指導することもあり得る。いずれの場合も児童生徒の既習内容等や学校の指導の重点等を踏まえること。 ②内容項目の文言をそのまま目標にするわけではない。内容項目に含まれる道徳的価値の理解を基に(以下③参照) ③道徳科が、道徳的諸価値の理解を基に自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、(人間としての)(在り方)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる教科であることを踏まえる。道徳的行動ができるようになることは、授業の目標ではない点に留意する。 ④道徳的価値の理解+道徳性(判断力、心情、実践意欲・態度)の構成で目標を立てるとよい。 例「(道徳的価値)～(に気付き、を感じ、を理解し、について考え等)、～しようとする気持ちをもつ、～する意欲をもつ」等		
内容 250字以内	①学期で指導する内容のうち、主要なものを記入する。また扱う主な内容項目を【 】で明記する。 ②経験不足になりがちであることを踏まえ、指導内容は各教科や特別活動、行事等と関連付けるとよい。 ③知的障害のある児童生徒に指導する場合は、個々の児童生徒の障害の状態、生活年齢、学習状況、経験等に応じて、指導内容を具体化し、体験的な活動を取り入れるよう工夫する。		
てだて 400字以内	①どの指導形態で取り扱うのかを記載する。(道徳科又は合わせた指導) ②目標を達成するための、個に応じたてだてや学び方(話し合い活動等)を記載する。 ③学習を行うための、個に応じた合理的配慮について記載する。 ※記入例には③個に応じた合理的配慮については記載できていない。実際の記入例には記入する ④使用する教科書があれば記載する。		
学期評価及び年間評価 550字以内	①観点別評価は行わない。目標に対する到達度を評価したり、他の生徒と比較したりせず、個人内評価とする。 ②学期当初にたてた目標について、児童生徒が授業の中で「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか」「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか」等の視点に即して見取る ③内容項目ごとに評価するのではなく、一定のまとまり(学期の評価の場合は学期を通して、年間の評価の場合は年間を通して)の中で、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を客観的に記述する。		
引継事項 200字以内	教師間で次担任に引き継ぐべきことを記載する。		

13. 参考文献

- 文部科学省（2017）「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」
- 文部科学省（2017）「中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」
- 「高等学校学習指導要領」文部科学省
- 文部科学省（2018）「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」
- 文部科学省（2018）「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」
- 文部科学省（2019）「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）」
- 文部科学省（2019）「特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（下）（高等部）」
- 文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」
- 厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」
- 赤堀博行監修・荻原武雄ら編著（2016）「これからの道徳教育と「道徳科」の展望」東洋館出版
- 毛内嘉威編（2018）『道徳授業のPDCA』明治図書
- 文部科学省調査研究協力者会議子どもの徳育に関する懇談会（2009）
「子どもの徳育の充実に向けた在り方について（報告）」
- 文部科学省懇談会報告 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（2016）
「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）」
- 岩立京子・西坂小百合編（2018）『保育内容 人間関係』光生館
- 上地完治編（2020）『道徳教育の理論と実践』ミネルヴァ書房
- 永田繁雄編（2017）『「道徳科」評価の考え方・進め方』教育開発研究所
- 石井恒好ほか編（2019）『道徳の評価 通信簿と指導要録の記入文例』図書文化
- 『新・みんなのどうとく2 教科書用指導書 指導編』学研教育みらい
- 神長美津子編（2004）『心を育てる幼児教育—道徳性の芽生えの育成—』東洋館出版社
- 長崎自立活動研究会（2019）『自立活動学習内容要素表』改定版

14. 研究同人

研究の総括	青木一桂	末松進也（主幹教諭）			
小学部	濱なつみ	新里安奈			
中学部	黒島みや子	赤嶺桂子			
高等部	宮平美沙乃	川原小夜			
寄宿舍	上地めぐみ	金城尚	島袋志乃		
	大城一輝	小野有美	上原晃一郎	金城康一	恩納愛子
	諸喜田光治	國仲宏樹	玉城一枝	上地安朋	
	金城恵子	宮川啓	喜屋武一樹	安次富利佳	吉里紀一郎

特別支援学校 道徳ガイドブック

発行日 令和4年3月

発行者 沖縄県立鏡が丘特別支援学校

校長 座間味恵利子

所在地 〒901-2104 沖縄県浦添市当山3丁目2番7号

TEL098-877-4940 FAX098-877-9958

Mail: school@kagamigaoka-sh.open.ed.jp

印刷所 (株) 東洋企画印刷